

令和 2 年度事業報告

滋賀の縁創造実践センター
社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会

I 概況

新型コロナウイルス感染症の急速な拡大と緊急事態宣言の発出をはじめとする感染拡大防止のための社会経済活動の自粛、縮小は私たちの生活に甚大な影響を与えた。

その影響についてみると、コロナ禍以前から、例えはひとり親家庭など従来から福祉的支援を必要とする人々の生活困窮は加速度的に進み、また、休業や失業による収入減少など経済的な要因により様々な生活上の困難に直面する人たちが生まれている。地域社会では、感染拡大防止のため地域における子ども食堂や地域サロン、見守り活動などボランタリーな活動の休止、専門職による障害者や高齢者への訪問控えや介護サービスの利用短縮が続き、これらの社会的なつながりがなくなることによる社会的孤立の進行、またDVや虐待など家庭内における問題の増加や深刻化も指摘されている。また、感染者やその家族、医療や介護の従事者への誹謗中傷もあった。

こうした状況から浮き彫りになったことは、生活格差の拡大とつながりの格差の拡大、さらには不寛容の拡大であり、あえて一言で言い表すならば「生きづらさを抱える人の増大と深刻化」という福祉課題の顕在化であった。

県社協では、だれもが「おめでとう」と誕生を祝福され「ありがとう」と看取られる人間的共感に根ざした共生社会実現のため、「ひたすらなるつながり」の具現化に取組むとの定款の定めにかんがみ、今こそ現場力、実践力が問われているという認識のもと、コロナ禍で困窮する人、生きづらさを抱える人、ほほえむ力を失っている子どもや若者に具体的な福祉的支援を届けることを第一とし、計画していた各事業からB C P（災害等非常時における事業継続計画）の考え方に基づき優先すべき事業を選択し、感染予防対策を講じた上で必要に応じて縮小や時期の繰り延べ、オンラインの導入等を行いながら実施するとともに、組織全体で「ひたすらなるつながり」への縁架け橋となる新たな事業の企画、実施に取組んだ。

しかしながら、令和2年度において本会が役割を十分に果たしたとは言えず、コロナ禍の継続により不透明さが増し福祉課題の増大、深刻化が見込まれる社会状況の中で、改めて定款に即し取組みの強化を図る必要がある。令和4年に迎える法人設立70周年を念頭に、コロナ禍で深刻さを増す生きづらさを抱える人に、「ひたすらなるつながり」への“縁架け橋”が着実に届くものとなるよう組織の基礎を強化し、ニーズに基づく具体的な取組みを創り実践していく必要がある。

II 第二次経営計画に基づく主な事業

1の柱 だれもが「ひたすらなるつながり」を実感できるネットワークづくり

1 緊急小口資金等特例貸付による生活困窮者支援

(1) 貸付事業

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、休業や失業等、一時的または継続的に収入減少した世帯を対象（低所得世帯以外のも対象を拡大）として、生活福祉資金貸付制度における緊急小口資金及び総合支援資金の貸付を行った。
- ・相談と申請受付の窓口を担う市町社会福祉協議会との情報共有と連携の円滑化のため、制度変更時には事務局長会議や担当課長会議を開催するとともに、担当職員間で事例共有や相談対応の工夫を学び交流する機会を設けた。

【貸付件数および金額実績（令和3年3月31日）】

①緊急小口資金	14,022 件	2,667,911,000 円
②総合支援資金 新規	12,142 件	9,896,016,000 円（延長含む）
	再貸付 5,070 件	2,692,930,000 円
	総合支援計 17,212 件	12,588,946,000 円
	特例総合計 31,234 件	15,256,857,000 円

(2) 調査研究

- ・コロナ禍における生活困窮者支援に関する調査研究・令和2年度レポート「滋賀県における生活福祉資金緊急小口資金等の特例貸付利用世帯の状況」の作成、発行

2 子どもの笑顔はぐくみプロジェクトの推進

(1) 滋賀の子どものほほえむ力サポート事業

- ・コロナ禍の影響によって困窮している世帯の子どもたちが少しでもうれしい気持ちになれるよう、子どもたちに活用していただく商品券を贈る取り組みを行った。
- ・令和2年6月10日から県民のみなさんに寄付金を呼びかけ、集まった寄付金と本会「はぐくみ基金」、県の補助金により事業を実施した。計6,621世帯に商品券を送付した。

【商品券の贈呈実績】（計6,621世帯に19,863,000円分の商品券を贈呈）

対象	①令和3年1月末までに特例貸付を利用した世帯で中学生以下の子どもがいる世帯 ②ひとり親で中学生以下の子どもがいる世帯
贈呈数	①1,393世帯 ②5,228世帯 合計6,621世帯

【募金・寄付金等実績】

募金、寄付金等合計	19,045,796 円
(内訳)	県補助金 10,000,000 円
緊急支援募金	9,045,796 円（募金箱約460か所設置）
	（内クラウドファンディング33件 391,452円）

商品券を受け取った方からのお便り（一部抜粋）

「商品券ありがとうございます。子どもの為に大切に使わせていただきます。」
「コロナ関係の給付金をいただき助かりますが、すべて生活費に回ってしまいます。なので、今回このような子どもへの支援があり非常にありがとうございます。」
「私のように身内がそばにおらず一人で子育てをしているひとり親にとって、目に見えないところでサポートをして下さっている方々がいると実感し、力を頂きました。子ども達のために大切に使わせていただきます。ありがとうございました。」

（2）スポンサーの方々からの物品提供の拡大

- ・本会と協働関係にある企業、団体や県との包括連携協定企業をはじめ、多様な方々から子ども食堂支援や子ども支援として金品と物品の提供があった。
- ・子どもの笑顔はぐくみプロジェクトを通じて、コロナ禍で子ども食堂を継続するボランティアグループや、子どもたちが生活する施設に善意の品を届けた。

【実績等】

①金品、物品の寄付（金額換算）※緊急支援募金除く 30,439,178 円
(R 元年度 18,169,823 円)

商品券、現金

食料品関係：缶詰（約 2 万個）、野菜ジュース、コーンフレーク、クッキー、野菜、米、冷凍食品（給食用食材）、災害用非常食、ミネラルウォーター 等々

その他：ハンドクリーンスプレー、次亜塩素酸水

②県からの子ども食堂物品提供

高島ちぢみのマスク、不織布マスク（約 6 万枚）、使い切り手袋（約 3 万足）

器具消毒用アルコール、手指消毒用アルコール、災害用非常食

弁当容器（約 35,000 組）

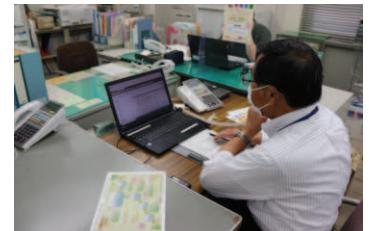
3 ひきこもり者と家族が孤立しない地域支援体制づくり

（1）ひきこもり電話相談の実施

- ・毎週木曜の午後、県社協において電話相談窓口を開設（“奏”との協働）するとともに、県内 7 機関（4 福祉圏域）協働のもと、一斉電話相談を実施した。

【電話相談実績】191 件（内新規 44 件）

【一斉電話相談実績】3 回実施（新規相談件数合計 35 件）



（2）アウトリーチによる相談支援の推進（保健福祉圏域における“奏モデル”推進）

- ・福祉圏域の事業所が制度の枠にとらわれないアウトリーチの訪問支援に取組んだ。

【実施圏域】甲賀圏域、湖東圏域、高島圏域

（3）居場所づくり

- ・コロナ禍でさらに外出の機会が減るなか、本会では「はたらく体験」を月 1 回定期開催するとともに、大津、高島福祉圏域の事業所による居場所活動を支援した。

【実績等】はたらく体験参加者数 のべ 62 人



はたらく体験参加者アンケートより

「パソコン作業が前回よりはかどったと思います。今は出来ることを全力でやってモチベーションを上げていきたいです。」

「人のためになることができて良かったです。早く働きたいです。」

「作業を他の方と協力してやることができたので、とても充実感があった。」

(4) 支援者ネットワーク、人づくり

- ・電話相談ケースに関わる支援調整会議の他、福祉圏域での研修会やネットワーク会議の開催に対して、県ひきこもり支援センターとの連携のもと支援等を行った。
- ・民生委員児童委員を対象に3日間の研修プログラムを実施した。

【実績等】研修会、ネットワーク会議の開催支援 5 福祉圏域

民生委員児童委員対象研修修了者 35 人

4 県社協 70周年記念誌の企画検討

- ・令和4年3月完成目標に、記念誌出版までのスケジュールを作成し、章立てと各章の具体的項目、取材先までおおよその企画が決定した。

2の柱 だれもが「ひたすらなるつながり」を実感できる居場所づくり

1 遊べる・学べる淡海子ども食堂の推進

(1) コロナ禍への対応サポート（継続のための支援）と新規開設の働きかけ

- ・子ども食堂実践者研修会「食品衛生～より安心・安全な子ども食堂にするためのポイントをおさえよう～」を2会場で実施。参加者からは、コロナ対策ばかり考えていたが、改めて食品衛生の大切さを認識し、正しい知識を得ることができたとの声があった。
- ・「新型コロナウイルス対策ハンドブック★これ、だいじ★」発行、配布
- ・はぐプロ通信特別号で、子ども食堂の声を共有
- ・スポンサーからの物品を各子ども食堂に届けつつ、活動状況や悩み、不安の聞き取りを行い、支援ニーズの把握に努めた。

【実績等】R3年3月末現在子ども食堂開設数 142 食堂 (R2年度新規開設 12 食堂)

(内訳) コロナ禍でも活動している食堂	102 食堂
コロナ禍により活動休止している食堂	40 食堂

(2) 「みんな集まれ！子ども食堂フェスタ」の開催

- ・コロナ禍だからこそ「ひたすらなるつながり」の楽しい活動を大事にしたいとの思いを活動者と共有し、感染対策を講じた安心安全な子ども食堂で楽しく交流するイベントを実施した。参加した家族からは、子どもたちが参加できるイベントが少ないとから良い機会になった、子どもが思いっきり遊び、カレーをいただき、うれしい一日になったとの声が届いた。子ども食堂活動者からも、活動再開への後押しになったという声が寄せられた。

【実績等】開催日 令和2年11月21日（土）

場 所 県立長寿社会福祉センター

参加者 323 人（スタッフ含む）

内 容 子ども食堂カレーサミット、ステージコーナー、遊びコーナー 等



2 社会的養護のもとで育つ若者と社会の架け橋づくり

(1) ハローわくわく仕事体験

- ・コロナ禍の影響を受け、協力企業での仕事体験に参加した子どもは半減したが、感染防止対策を講じて実施した小中学生向けのキャリアアップセミナーや各児童養護等施設（5施設）での企業参加によるプロフェッショナルセミナー等、子どもが自分のこと、社会のこと、そして働くことについて学び、考える機会をつくった。

【実績等】参加人数 のべ 124 人



(2) 児童養護施設退所者等自立支援資金貸付事業

- ・通常の貸付に加えコロナ禍の影響を受け収入が減少した進学者および就職者に対し、生活支援費の増額（進学者）および新たに貸付（就職者）を実施するとともに、現況確認時の支援プラン会議の他、電話や来所による声掛けサポートを行った。

【実績等】貸付利用者 25 人 貸付件数 のべ 43 件 (R元実績 : 15 件)



(3) 滋賀県地域養護推進協議会設立に参画し、協議会事務局を受任

- ・令和2年7月に県に提案した、滋賀ならではの地域養護のしくみづくりが県において施策化（令和3年度創設）されることになったことから、提案した主体である本会と滋賀県児童福祉入所施設協議会が中心となり、滋賀県地域養護推進協議会を設立した（令和3年3月26日）。本会は協議会事務局を受託することになった。

3の柱 「ひたすらなるつながり」を創造実践する滋賀の福祉人づくり

1 滋賀の福祉人確保、定着支援等の取組み（介護・福祉人材センター）

(1) 雇用マッチング数（採用数）

- ・計画に対する達成率は▲11名の90.8%であった。
- ・対前年度比では、令和元年度の実績 156 人に対して、▲47 人となった。このうち紹介状発行による採用数は前年比▲6 人と減少幅は小さかったが、コロナ禍による上期の就職フェア等、

事業中止の影響により、就職フェアを通じた採用は▲41人と大きく減少した。

【実績等】

計画	実績	計画・実績比
120人	109人（90.8%）	▲11人

(109人の内訳)

紹介状	就職フェア等	合計
61人	48人	109人

(2) 就職フェアの開催

- コロナ禍の影響により上期は対面式のフェアが開催できず、7月に初めてオンラインフェアを開催した。下期はコロナ対策として1回あたりの出展法人数を抑えながらも2部制を採用することにより、法人の出展機会および求職者の選択肢を確保した。また、法人動画をユーチューブで公開し、事前に事業所の雰囲気を感じてもらえるように工夫した。

【実績等】フェア参加者数 460人（R元年度：488人）

フェア出展法人数 165（R元年度：179）

(3) SNS等オンラインを活用した職業紹介

- 令和2年度は、Twitter、LINEを導入し、ホームページを含めたSNSで、就職フェアやインターンシップ等の事業情報や求人情報を発信した。
- ホームページや「福祉のお仕事」検索などに簡単にアクセスできるなど利便性がアップしたことから、今後も、1日1回以上の発信を目標にタイムリーな情報発信を行っていく。

【実績等】R3年3月末現在LINE登録者数 305人（ブロックは除く）

(4) 職場体験（高校生向け）と助成金付きインターンシップ（大学、社会人向け）

- R2年度より、参加者に対し交通費と昼食費相当分の助成を行う助成金付きインターンシップを新たに開始し、前年（助成金なし）実績比では+17名となり、40人のうち11人が採用に結びついた。
- 体験事業全体では、コロナ禍の影響で体験受入登録事業所数が前年比4割程度となったことや、登録事業所が一時的に受入を中止したこと等により計画比では大幅未達となった。しかしながら体験者アンケートでは85%が体験の目標を達成できたとしており、93%の方から福祉の仕事をしたいと回答があった。

【実績等】

	計画	実績	計画・実績比
職場体験	30人	7人	▲23人
助成金付きインターンシップ	70人	40人	▲30人

2 滋賀の福祉人育成研修（社会福祉研修センター）

- コロナ禍により、研修計画50コースのうち10コースが中止を余儀なくされたが、80%の40コースは開講でき、約1,700人の受講者に研修を実施することができた。
- 実施時期については、令和2年4月～6月は一律に中止とし7月から徐々に再開したことにより11コースで実施時期を変更したため、後期の実施は過密スケジュールとなった。
- 研修開催にあたっては、国、県のコロナ感染防止対策ガイドラインに準拠し、研修規模（定員）の縮小、会場増設、一部オンライン導入、会場内における基本的な感染防止対策の徹底など、対策を講じ、福祉施設職員が安全に安心して受講できる環境づくりに努めた。

- ・これらにより、コロナ禍による受講者への影響は、概ね低く抑えられたものと考えられる。今回の対応方策を今後においても参考としていくこととする。

【実績等】

計画	実績	コロナ禍の影響
50 コース [定員] 3,820 人	40 コース [受講者数] 1,722 人	10 コース中止、11 コース実施時期変更 一部オンライン導入、定員減、会場増

3 レイカディア大学の充実、再編の検討

(1) 臨時休校の後、カリキュラムを変更して再開

- ・コロナ禍の影響により、国、県の方針を受け、令和2年3月から8月まで臨時休校とし、9月から再開した。臨時休校に伴い学習期間を変更し、41期生についてはR2年9月卒業の予定をR3年3月とした。また、43期生の学生募集は1年延期とした。
- ・大学の再開にあたっては、国、県のガイドラインに準拠した独自ガイドラインを策定し、感染症対策を徹底することで学生が安心・安全に受講することができた。オンラインも導入し、座学が中心となる必修講座は集合型とオンライン型を選択できるようになり、学生から感謝の声が届いた。
- ・コロナ禍における安心・安全な大学運営をテーマに学生代表、サポートの会、事務局の三者で連絡会議を設置し協議を行ったことで、コロナ対応にとどまらない幅広い大学運営について意見交換できる有効な場となった。

(2) レイカディア大学再編にかかる検討

- ・令和4年度のレイカディア大学再編に向けて、レイカディア大学運営委員会において検討を行った。必修講座のカリキュラムについては運営委員会に専門部会を置き、具体案の作成を進めた。

4 縁アカデミー開学（令和3年秋を予定）に向けた準備

(1) 運営委員会によるカリキュラム等の検討

- ・滋賀ならではの福祉の価値観をもって実践者として主体的に課題を解決していく滋賀の福祉人を育成する“創造実践の道場”を目指し、縁アカデミーの要素と講師陣について検討を進め、講師陣（フェロー）への依頼を開始した。

(2) プレ企画の実施

- ・「コロナ禍においても学びを止めない」との方針のもと、6月～12月の間、オンラインによる交流学習会、会場参集とオンライン併用によるセミナー、オンラインによる事例学習会（ゼミ方式）、ウェブ配信によるセミナーを実施した。いずれの開催についても、高齢、障害、児童、社協、行政の各分野から現場職員が参加し、研究者・指導者と近い距離で新たな学びと新たな学び方の経験ができたことは、縁アカデミー開学に向けた着実な一歩となった。

4の柱 5つの力を磨き「ひたすらなるつながり」を支える職員づくり

- ・滋賀県社協職員育成基本方針を策定し（4月）、新人職員、グループリーダー職員を対象として内部研修を実施するとともに、県社会福祉研修センターのキャリアパス研修「えにし滋賀の福祉人

研修」に当該階層の職員を派遣した。

【実績等】えにし滋賀の福祉人研修派遣職員数 9人

5の柱 「ひたすらなるつながり」を実現する活動資金づくり

- ・指定管理事業については、コロナ禍の影響により利用料収入、参加費収入の大幅減少があったが、事務費、事業費の実績減、職員の退職および採用に伴う若年化による人件費減の結果、センター管理事業等から「はぐくみ基金」へ1,500万円を繰出し、基金の増強を図ることができた。

【実績等】施設稼働率（単位：円）

	令和2年度実績	前年度実績	増減
利用者数	47,913人	84,318人	▲36,405人
稼働率	51.9%	64.4%	▲12.5%

III 部門別事業実施状況

【経営部門】

＜総務グループ＞

1 理事会、監事会、評議員会等の開催

(1) 理事会

＜第1回＞ 決議の省略

- ・理事会の決議があったとみなされる日…令和2年5月15日（金）
- ・理事会の決議があったとみなされる事項の内容
- (1)評議員の補充選任に伴う、評議員選任・解任委員会に提出する候補者の選任について
- (2)評議員の補充選任に伴う、評議員選任・解任委員会に提出する候補者の選任について
- (3)評議員選任・解任委員会委員の推薦及び解任について

＜第2回＞

開催日 令和2年6月9日（火）

会 場 センター

- 議 題 (1) 平成31年度 事業報告（案）について
(2) 平成31年度 一般会計決算（案）について
(3) 平成31年度 生活福祉資金会計決算（案）について
(4) 令和2年度 生活福祉資金会計第一次収支補正予算（案）について
(5) 令和2年度 第1回（定時評議員会）の招集について

＜第3回＞ 決議の省略

- ・理事会の決議があったとみなされる日…令和2年8月18日（火）
 - ・理事会の決議があったとみなされる事項の内容
- (1) 評議員の補充選任に伴う、評議員選任・解任委員会に提出する候補者の選任について

＜第4回＞

開催日 令和3年3月9日（火）

会 場 センター

- 議 題 (1) 令和3年度 事業計画（案）について
(2) 令和3年度 一般会計収支予算（案）について
(3) 令和3年度 生活福祉資金会計収支予算（案）について
(4) 令和3年度 資産運用計画（案）について
(5) 令和2年度 一般会計第二次収支補正予算（案）について
(6) 令和2年度 生活福祉資金会計第十二次収支補正予算（案）について
(7) 滋賀県社会福祉協議会諸規程の改正（案）について
(8) 役員等賠償責任保険契約の締結および本会の保険料負担（案）について
(9) 令和2年度 第2回評議員会の開催について

(2) 監事会

＜第1回＞

開催日 令和2年5月25日（月）

会 場 センター

- 議 題 (1) 事業報告等（理事の業務執行状況、法人の業務執行状況）の監査
(2) 計算関係書類及び財産目録の監査

(3) 評議員会

<第1回>

開催日 令和2年6月26日（金）

会 場 センター

議 題 (1) 平成31年度 事業報告について

(2) 平成31年度 一般会計決算について

(3) 平成31年度 生活福祉資金会計決算について

(4) 令和2年度 生活福祉資金会計第一次収支補正予算について

<第2回>

開催日 令和3年3月16日（火）

会 場 センター

議 題 (1) 令和3年度 事業計画（案）について

(2) 令和3年度 一般会計収支予算（案）について

(3) 令和3年度 生活福祉資金会計収支予算（案）について

(4) 令和2年度 一般会計第二次収支補正予算（案）について

(5) 令和2年度 生活福祉資金会計第十二次収支補正予算（案）について

(6) 役員等報酬規程の改正（案）について

(4) 評議員選任・解任委員会について

<第1回> 決議の省略

・評議員選任・解任委員会の決議があったとみなされる日…令和2年5月29日（金）

・評議員選任・解任委員会の決議があったとみなされる事項の内容

(1) 第34期評議員の補充選任について

<第2回> 決議の省略

・評議員選任・解任委員会の決議があったとみなされる日…令和2年9月8日（火）

・評議員選任・解任委員会の決議があったとみなされる事項の内容

(1) 第34期評議員の補充選任について

2 広報活動

(1) ホームページを活用した情報の発信

本会事業に関する緊急や最新のお知らせ、研修等事業の情報をはじめ、本会の法人理念、経営計画、財務情報等を広く情報発信した。

また、より見やすく、わかりやすいホームページに全面リニューアルを行い、令和3年度からの広報強化に備えた。

・アクセス数： 122,878件（2020.4.1～2021.3.31）

・ページビュー数： 665,306件（2020.4.1～2021.3.31）

3 滋賀県社協70周年事業に向けた準備

(1) 記念誌の発行準備

令和4年3月中の完成を目指し、プロジェクトチームで企画の検討・取材等の準備を進めた。

4 滋賀県社会福祉協議会会長表彰 表彰式及び交流会の開催

(1) 表彰式

開催日 令和2年11月17日(火)

会場 ホテルニューオウミ

<被表彰者>

- ・民生委員児童委員…7件
- ・社会福祉施設、社会福祉事業、老人保健施設を経営する法人の役員等…2件
- ・社会福祉施設、社会福祉事業職員、介護老人保健施設の現業職員…91件
- ・社会福祉協議会、社会福祉関係団体等の役員等…10件
- ・社会福祉協議会、社会福祉関係団体等の職員…22件
- ・ボランティア(個人)…9件
- ・ボランティアグループ…19件

<感謝>

- ・寄付 35件 法人27件 個人8件
- ・地域福祉の推進に特に貢献している社会福祉法人または団体 2団体

なお、全国社会福祉協議会会長表彰には下記のとおり推薦を行った。

<本会から推薦を行い受賞された内訳>

民生委員児童委員功労者5名、社会福祉施設功労者4名、社協・団体功労者1名
永年勤続功労者11名、社会福祉協議会優良活動1社協

5 縁特別会員の広報および会員の拡大、基金の増強

滋賀の縁創造実践センターの実践を支える新たな会員制度である「縁特別会員」制度の周知及び会員加入促進のため、広報誌やホームページ等での広報、施設や事業所への訪問による入会呼びかけ等を行った。

(1) 縁特別会員数

	団体	社会福祉法人	企業	個人	賛助	合計
会員数	16	84	0	21	1	122

6 えにし認証活動の推進

(1) 認証委員会

開催日 令和3年1月13日(水)

会場 滋賀県合同庁舎

内容 認証についての審議

(2) 認証式

第39回滋賀県社会福祉学会閉会式にて実施した

開催日 令和3年2月22日(月)

会場 センター

<認証団体数>

16(累計 認証団体36、奨励団体18)

7 県への施策提案

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策および第2波への備えに関する社会福祉関係予算緊急要望
～滋賀ならではのセーフティーネットメッセージの提案～（令和2年6月18日）
- ・生活福祉資金特例貸付の貸付原資および事務費に係る補助金の大幅な増額交付による実施体制の強化
 - ・「滋賀の子どものほほえむ力サポート事業」の対象者拡大に対する支援
 - ・子ども食堂への支援策の実施
 - ・滋賀の福祉人の育成・確保のためIT機器等導入支援策の実施
 - ・社会福祉施設の事業継続を目的とした、優先的かつ公費負担によるPCR検査の実施体制の確立
 - ・新型コロナウイルス感染対策ガイドラインの策定支援
 - ・第2波に備えた衛生・防護用品等の備蓄および購入経費支援策の実施
- (2) レイカディア大学米原校の移転、滋賀の福祉人北部拠点の整備、縁アカデミー修了者事業所認証制度の創設について（令和2年7月31日）
- ・レイカディア大学米原校の移転
 - ・滋賀の福祉人の確保・定着・育成に向けた県北部地域拠点の整備
 - ・「縁アカデミー」修了者事業所認証制度の創設
- (3) 滋賀ならではの地域養護の創設について（県児童福祉入所施設協議会との共同提案）
(令和2年7月31日)

8 社会福祉法人・施設との協働

- (1) 滋賀県社会福祉関係団体予算対策協議会による予算要望活動の実施
市町社会福祉協議会、施設協議会、関係福祉団体など関係者とともに喫緊の福祉課題について認識を共有し、令和2年度に向けた社会福祉関係予算要望及び提案を協働で行った。

要望先	実施日	場所
自由民主党滋賀県議会議員団	令和2年7月31日（金）	滋賀県庁2階 議員室
滋賀県（健康医療福祉部長）	令和2年7月31日（金）	滋賀県大津合同庁舎7C会議室
チームしが 県議団	令和2年8月24日（金）	滋賀県庁2階 第5委員会室

- (2) 社会福祉施設等関係団体との協働
「滋賀県児童成人福祉施設協議会」の事務局受託および「滋賀県社会福祉法人経営者協議会」「滋賀県老人福祉施設協議会」の事務受託により各団体の運営に協力するとともに、事業が円滑に実施されるよう支援した。
- (3) 他団体が実施する助成事業への協力
- ①ダイトロン福祉財団障害者福祉助成審査への協力
 - ②オージス総研から「はじまるくんパソコン」寄贈への協力
 - ③大阪ガスグループ福祉財団「高齢者福祉助成」への協力
 - ④24時間テレビ『福祉車両贈呈』への推薦協力
 - ⑤滋賀トヨタ自動車株式会社・ネットトヨタ滋賀株式会社「福祉巡回車両贈呈への推薦協力
 - ⑥「しがぎん福祉基金」の助成の取りまとめと審査協力

⑦財団法人河本文教福祉振興会助成事業への推薦協力

（4）滋賀県善意銀行の運営

県域で実施される民間団体等の地域福祉の向上を図る活動への支援のため、「滋賀県善意銀行」として、寄付・預託の受入れと助成を行った。

①寄付・預託の受入れ

株式会社ツルハホールディングス・クラシエホールディングス 車椅子 5台

滋賀日産自動車株式会社 車椅子 20台

関西遊技機商業組合 車椅子 5台、クッション 5台

滋賀県宅地建物取引業協会 青年部会 車椅子 10台

金銭預託 420,000円

9 人事管理システムの導入

システム導入により、各職員の人事情報の一元管理が可能となった。

10 「人材育成基本指針」の策定

基本方針に基づき、職階に応じた職務遂行能力の向上の為、下記の通り、新規採用職員に対する職場内部研修の実施、階層別研修等への参加により、職員の資質向上を図った。

（1）令和2年4月入職職員対象研修

開催日 令和2年6月25日（木）、令和2年7月 8日（水）

令和2年7月22日（水）、令和2年8月 3日（月）

参加者 4名

（2）えにし滋賀の福祉人研修

【新任期】

開催日 令和3年1月25日（月）、令和3年2月 1日（月）

令和3年2月15日（月）、令和3年4月19日（月）

参加者 4名

【チームリーダー】

開催日 令和2年9月 9日（水）、令和2年9月16日（水）

令和2年9月24日（木）

参加者 2名

【管理職員】

開催日 令和2年10月22日（木）、令和2年10月28日（水）

参加者 3名

（3）部落解放研究第28回滋賀県集会

開催日 令和3年3月13日（土）14:10～15:30 オンライン

参加者 3名

11 事務局ネットワークシステムの保守・管理

業務・事務改革プロジェクトの取組の一つとして、情報セキュリティ対策強化を図るため、「情報セキュリティ基本方針」等を定め、ネットワーク、情報システム、情報資産及び情報セキュリティに関する管理・責任体制を整備するとともに、遵守事項等に関する職場研修会を開催した。

1.2 長寿社会福祉センターの管理運営

高齢者の健康と生きがいづくりを推進し、明るく活力ある長寿社会づくりを実現することを目的・役割として設置されるセンターを、誰もが利用しやすい施設となるよう努めるとともに、その適切な管理運営に努めた。

また、設置者の滋賀県とともに、施設設備の経年使用に伴う老朽等へ計画的に対処した。

(1) 特定施設の利用実績

施設を、下表のとおり約48,000名の方に利用いただいた。

<特定施設の利用件数、利用者数の本年度累計>

室名	大教室	体育室	焼成室	陶芸室	第1教室	調理室	第2教室
件数(件)	161	133	110	116	153	86	109
人数(名)	15,029	2,886	1,058	2,127	3,143	1,243	2,276
室名	会議室	第1研修室	第2研修室	第3研修室	第4研修室	合計	
件数(件)	201	218	199	177	185	1,848	
人数(名)	2,316	10,413	2,107	2,358	2,957	47,913	

(2) 特定施設の稼働実績

新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響もあり対前年度比で12.5ポイント稼働率が減少し、施設の有効活用の目標61.1%を9.2ポイント下回る51.9%となった。

<特定施設の本年度稼働率>

室名	大教室	体育室	焼成室	陶芸室	第1教室	調理室	第2教室
稼働率	53.8%	45.4%	37.5%	39.6%	52.0%	29.4%	37.2%
室名	会議室	第1研修室	第2研修室	第3研修室	第4研修室	合計	
稼働率	68.1%	71.5%	65.9%	58.8%	61.5%	51.9%	

(3) 貸室ポータルサイトの運営

貸室を利用したい、貸室の概要を知りたいといった方々にむけて、貸室の予約空き状況など利用いただくために必要となる情報や関連する情報を、誰もがいつでも手軽かつ簡単に閲覧いただけけるようポータルサイトを運用した。

閲覧数 延べ28,500件 令和3年3月末現在

(4) センター施設設備の保全と維持管理

センターが適切に機能するよう、その適正な保全と維持管理に努めた。

① 建築保全業務の一部委託実施

- ② 清掃業務の委託実施
- ③ 一般廃棄物および産業廃棄物の適法で適切な処分の実施
- ④ 敷地内除草作業
- ⑤ 本館棟非常灯バッテリー交換
- ⑥ 照明器具（蛍光灯・安定器）交換修理
- ⑦ 新型コロナウィルス感染拡大防止対策の実施（もしサボ滋賀の導入・各種消毒用機材の配備・昼食時の感染防止対策を館内放送・来館者用受付電話の設置など）
- ⑧ AEDのバッテリーパック・パッドの交換
- ⑨ 「時計塔」外壁改修工事の実施
- ⑩ 空調冷温水器（ポンプ・バーナー）改修工事の実施
- ⑪ テクノハウスのトイレ排水管詰まり。高圧洗浄実施
- ⑫ センター入口ロータリー舗装の修理
- ⑬ 敷地内グラウンド不陸補正 など

（5）消防訓練の実施

緊急事態発生時の在館者等の安全確保並びに財産の保全と被害軽減のため、消防訓練を実施した。

実施日：令和2年10月8日（木）

令和3年3月15日（月）

<資金貸付・債権管理グループ>

1 児童養護施設退所者等自立支援資金貸付事業の実施

児童養護施設や自立支援ホーム等を退所し、就職や進学する者が、安定した生活基盤を築き、円滑な自立が図れることを目的とし貸付事業を実施した。

(1) 児童養護施設退所者等自立支援貸付事業の状況

通常の貸付に加え、新型コロナウイルス感染症の影響を受け収入が減少した進学者及び就職者に対し、生活支援費を増額及び新たに貸付。

(実績)

生活支援費	11件	6,600,000円
家賃支援費	19件	7,329,676円
資格取得支援費	5件	992,870円
生活支援費（拡充）	8件	1,560,000円
合計	43件	16,482,546円

(延べ25名)

(2) 児童養護施設退所等自立支援資金貸付事業の広報

児童養護施設、自立支援ホーム等に在籍する子ども及び職員に対し制度の周知・説明を行った。

① 児童養護施設等・里親等支援者向け説明会の実施

対象者 施設職員・里親

開催日 令和2年10月2日（金）	鹿深の家
令和2年10月9日（金）	さざなみ学園
令和2年10月27日（火）	湘南学園
令和2年11月24日（火）	守山学園
令和2年12月15日（火）	愛東コミュニティセンター（里親）
令和2年12月22日（火）	FHだんらん（里親）

② そらまめガイド・ほっとスポット説明会の開催（児童向け説明会）の実施

対象者 児童

開設日 令和2年10月9日（金）	さざなみ学園
令和2年11月7日（土）	湘南学園
令和2年11月11日（水）	小鳩の家
令和2年12月2日（水）	守山学園

2 生活福祉資金貸付事業の実施

市町社協、民生委員児童委員、市町行政、生活困窮者自立支援法による相談支援関係団体等との連携を図り、貸付を通じた支援を行った。

(1) 生活福祉資金等の貸付による支援の実施

- ① 滋賀県貸付審査等運営委員会の開催 年間11回開催
- ② 生活福祉資金、臨時特例つなぎ資金の周知、制度利用の促進
・生活福祉資金啓発パンフレットの配布

県内市町社協・行政機関

- ・新任民生委員・児童委員への制度説明

令和2年7月13日 守山市民生委員児童委員協議会 参加者40名

令和2年6月 9日 甲良町民生委員児童委員協議会 参加者22名

- ③ 生活福祉資金、臨時特例つなぎ資金の貸付

総合支援資金、福祉資金（福祉費、緊急小口資金）、教育支援資金、不動産担保型生活資金の貸付

別表1 生活福祉資金等貸付決定状況

（2）生活福祉資金等の償還促進を通じた支援の実施

- ① 生活福祉資金、臨時特例つなぎ資金の債権管理の実施

別表2・3「生活福祉資金等 貸付中件数・金額」

別表4「生活福祉資金等 貸付支出に対する償還の割合」

- ② 長期滞納者の督促等による債権管理の強化

・借受世帯の状況把握と対応（住所・氏名等の変更、債務整理等）

・長期滞納者への督促

令和2年5月 5,063通 11月 4,791通

- ③ 借受世帯の状況把握及び個別相談支援

借受世帯への個別対応・支援を行うため、市町社協と連携し、面談や電話相談等を通して、借受世帯の状況を把握し個別の対応や支援を行った。

- ④ 行方不明者の居住地調査の実施

対象	新住所判明	異動なし	死亡	行方不明	出国確認
501人	398人	66人	18人	17人	2人
100%	79%	13%	4%	3%	0%

- ⑤ 儚還困難者に対する職権免除の実施

債務整理を行い、自己破産となった債権の職権免除

福祉資金	4件	免除元金	518,299円
緊急小口資金	23件	免除元金	1,575,407円
総合支援資金	9件	免除元金	1,357,643円
離職者支援資金	1件	免除元金	2,400,000円
つなぎ資金	1件	免除元金	34,000円
	38件		5,885,349円

（3）生活福祉資金貸付制度 実務者研修会

コロナ緊急事態宣言を受け「制度概要と留意事項」の資料配布を実施。

配布先 各市町社会福祉協議会

- 配布資料 ①講義1 生活福祉資金の概要について
②講義2 制度概要と留意事項「福祉費」
③ 制度概要と留意事項「緊急小口資金」
④ 制度概要と留意事項「教育支援資金」
⑤ 制度概要と留意事項「生活復興資金」
⑥ 制度概要と留意事項「不動産担保型生活資金」
⑦ 制度概要と留意事項「要保護世帯向け不動産担保型生活資金」

- ⑧ 制度概要と留意事項「臨時特例つなぎ資金」
- ⑨講義3 生活福祉資金の償還について
- ⑩資料 生活福祉資金 電算システム送付帳票集
- ⑪資料 生活福祉資金 様式集

(4) 生活困窮者支援や生活福祉資金等の相談対応時に必要な知識として奨学金制度について市町社会福祉協議会の職員様向け研修

生活福祉資金情報提供会の開催

開催日 令和2年12月1日（火）

会 場 県立長寿社会福祉センター

内 容 「相談業務に役立つ 知っておきたい いろんな奨学金制度
～高校・大学・専門学校進学時につかえる奨学金制度～

①「滋賀県奨学金」及び「高等学校等就学支援金」

講師 滋賀県教育委員会

②「私立高等学校等特別修学補助金」

講師 滋賀県総務部私学・県立大学振興課

③「高等教育の修学支援制度」

講師 日本学生支援機構

④「保育士修学資金・介護福祉士修学資金」

担当 滋賀県社協担当者

参加者 25人

(5) 生活困窮者支援や生活福祉資金等の相談対応時に必要な知識としてコロナ禍における役立つ情報・他制度等についての市町社会福祉協議会の職員様向け勉強会

① 生活福祉資金情報提供会の開催

開催日 令和2年 3月 2日（火）

会 場 県立長寿社会福祉センター

内 容 ①「コロナ禍における、これから的生活を支える相談窓口対応について」

講師 滋賀県健康福祉政策課 企画調整係 課長補佐 浅岡勝義氏

②「求職者への支援制度・給付金制度」

講師 滋賀労働局 職業安定部訓練室 室長 矢尾忠之氏

参加者 22人

② 生活福祉資金貸付制度特例貸付に係る情報交換会の開催

開催日 令和2年 3月30日（火）

会 場 オンライン会議

内 容 ① 申請受付期間の延長について

② 据置期間の延長・償還開始の延長について

③ 儚還免除の取扱いについて

④ 市町社協事務費について

担当 地域福祉グループ 資金貸付・債権管理グループ

参加者 26人

3 保育士修学資金等貸付事業の実施

滋賀県内において、保育士の充足に資することを目的に、将来保育士として児童の保護等の業務に従事しようとする者に修学資金、潜在保育士には保育料の一部貸付・就職準備金貸付、保育施設等には保育補助者雇上費貸付を実施した。養成施設を卒業後、滋賀県内の要綱で定める施設等において保育業務に5年間引き続き従事した場合、貸付金の返還が免除となります。

(1) 保育士修学資金等貸付事業の状況

(保育士修学資金)

・就労による返還猶予者数	552人 (平成25年度～)
・貸付継続者数	233人 (平成25年度～)
・返還者数	191人 (平成25年度～)
令和2年度実績	
・申請件数	103件
・決定件数	103件 (143,542,028円)
・契約件数	102件 (142,342,028円)

(養成校別内訳)

養成校	コース	人数(人)
華頂短期大学	2年課程	20
滋賀短期大学	2年課程	16
京都文教短期大学	2年課程	11
龍谷大学短期大学部	2年課程	8
びわこ学院大学短期大学	2年課程	6
びわこ学院大学	4年課程	6
京都橘大学	4年課程	5
池坊短期大学	2年課程	4
京都文教大学	4年課程	4
その他		22
合計		102

(保育料の一部貸付金)

令和2年度実績

・申請件数	63件
・決定件数	63件 (11,467,515円)

(就職準備金貸付金)

令和2年度実績

・申請件数	42件
・決定件数	42件 (14,674,778円)

(保育補助者雇上費貸付金)

・申請件数	7件
・決定件数	7件 (57,439,884円)

(子どもの預かり支援事業利用料金の一部貸付金)

- | | |
|-------|---------------|
| ・申請件数 | 1 件 |
| ・決定件数 | 1 件 (3,000 円) |

(2) 保育士修学資金等貸付事業の広報

将来保育士を目指す学生や、潜在保育士に対して制度の周知・説明を行った。

- ① 県内高等学校（65校）への募集要項案内配布。
- ② 県内保育所等（435施設）への潜在保育士向けチラシ配布。
- ③ 滋賀の保育所・認定こども園等就職フェアへの参加。
- ④ ホームページによる制度広報。

4 介護福祉士修学資金等貸付の実施

滋賀県内の介護人材育成、確保及び定着を支援するため、介護福祉士養成施設に在学し、介護福祉士の資格取得を目指す学生に対しの修学資金の貸付事業を実施した。養成施設を卒業後、滋賀県内の施設等において介護等の業務に5年以上従事した場合貸付金の返還が免除になります。

(1) 介護福祉士修学資金貸付の状況

(介護福祉士修学資金)

令和2年度実績

申請件数	48人 (76,386,000 円)
決定件数	48人 (76,386,000 円)
契約件数	47人 (73,896,000 円)

(令和2年度新規貸付者内訳)

養成施設名	人数	養成施設名	人数
びわこ学院大学短期大学部	10人	関西社会福祉専門学校	1人
華頂社会福祉専門学校	20人	若狭医療福祉専門学校	1人
京都医療福祉専門学校	8人	北大阪福祉専門学校	1人
京都福祉専門学校	5人	日本福祉大学	1人
神戸女子大学	1人	計	48人

(介護福祉士実務者研修受講資金貸付)

- | | |
|-------|---------------------|
| ・決定件数 | 128件 (20,154,250 円) |
|-------|---------------------|

(介護職員再就職準備)

- | | |
|-------|-------------------|
| ・決定件数 | 16件 (5,560,800 円) |
|-------|-------------------|

(2) 介護福祉士修学資金貸付事業の広報

将来介護福祉士を目指す学生等、介護の実務経験のある有資格者に対し制度の周知、説明を行った。

- ① 県内高等学校（65校）への募集要項、案内を配布。
- ② 県内社会福祉施設事業者等への募集要項、案内の配布。
- ③ ホームページによる広報。

別表1		令和2年度					
		借入申込		貸付決定		決定率	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
総合支援資金		0	0	0	0	—	—
生活支援資金		0	0	0	0	—	—
住宅入居費		0	0	0	0	—	—
一時生活再建費		0	0	0	0	—	—
福祉資金	59	41,565,360	58	39,899,360	98.31%	95.99%	
生業	0	0	0	0	—	—	
技能習得	6	3,644,500	6	3,644,500	100.00%	100.00%	
住宅増改築	5	8,618,000	5	8,618,000	100.00%	100.00%	
障害者等福祉用具購入	1	350,000	1	350,000	100.00%	100.00%	
障害者自動車購入	10	15,562,000	9	13,896,000	90.00%	89.29%	
中国残留邦人等国民年金追納	0	0	0	0	—	—	
療養	2	2,062,500	2	2,062,500	100.00%	100.00%	
介護・障害サービス	1	450,000	1	450,000	100.00%	100.00%	
災害	3	4,500,000	3	4,500,000	100.00%	100.00%	
冠婚葬祭	1	500,000	1	500,000	100.00%	100.00%	
転宅、給排水	9	4,280,000	9	4,280,000	100.00%	100.00%	
支度	0	0	0	0	—	—	
その他の	21	1,598,360	21	1,598,360	100.00%	100.00%	
生活復興支援資金	0	0	0	0	—	—	
緊急小口資金	31	2,909,000	30	2,809,000	96.77%	96.56%	
緊急小口資金(災害特例)							
教育支援資金	292	332,605,900	292	322,543,300	100.00%	96.97%	
教育支援費	137	270,053,310	137	260,017,710	100.00%	96.28%	
就学支度費	149	59,311,890	149	59,284,890	100.00%	99.95%	
授業料滞納特例	4	1,660,700	4	1,660,700	100.00%	100.00%	
教育拡充(教育支援費)	1	1,080,000	1	1,080,000	100.00%	100.00%	
教育拡充(就学支度費)	1	500,000	1	500,000	100.00%	100.00%	
合計	382	377,080,260	380	365,251,660	99.48%	96.86%	
不動産担保型生活資金	1	4,396,000	1	4,396,000	100.00%	100.00%	
一般向け	0	0	0	0	—	—	
要保護世帯向け	1	4,396,000	1	4,396,000	100.00%	100.00%	
合計	383	381,476,260	381	369,647,660			
※ 不動産担保型生活資金の金額は、不動産評価に対する貸付限度額							
臨時特例つなぎ資金	0	0	0	0	—	—	

別表2 生活福祉資金等貸付中件数・金額					
		令和3年3月31日現在		令和2年3月31日現在	
資金種類		貸付中件数 (件)	貸付中金額 (円)	貸付中件数 (件)	貸付中金額 (円)
総合支援資金		17,793	11,064,994,289	1,655	1,168,978,847
	通常貸付	1,640	1,129,608,769	1,655	1,168,978,847
	特例貸付	16,153	9,935,385,520	0	0
福祉資金		469	237,420,170	488	234,990,390
緊急小口資金		14,772	2,698,943,376	977	71,272,109
	通常貸付	976	55,473,992	977	71,272,109
	特例貸付	13,796	2,643,469,384	0	0
生活復興支援資金		8	3,056,676	9	3,515,546
教育支援資金		2,598	1,699,441,340	2,395	1,569,454,208
更生資金		47	32,459,178	50	33,009,803
障害者更生資金		9	20,471,082	10	22,874,712
生活資金		11	4,105,277	12	4,123,847
住宅資金		24	18,190,159	26	21,856,689
療養・介護等資金		37	18,523,352	39	18,815,592
災害援護資金		1	1,392,900	1	1,392,900
離職者支援資金		105	126,516,255	108	137,910,060
小計		35,874	15,925,514,054	5,770	3,288,194,703
不動産担保型生活資金		4	45,486,082	4	44,406,082
要保護不動産担保型生活資金		15	56,157,900	15	51,547,900
小計		19	101,643,982	19	95,953,982
生活福祉資金合計		35,893	16,027,158,036	5,789	3,384,148,685
臨時特例つなぎ資金		35	2,885,690	36	2,949,690

別表3

生活福祉資金 資金種類別貸付状況(平成28年度～令和2年度)

(件)

資金		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
総合支援資金		1,709	1,705	1,673	1,655	17,793
	総合支援資金(通常)	1,709	1,705	1,673	1,655	1,640
	総合支援資金(特例)	0	0	0	0	16,153
福祉資金		407	447	463	488	469
緊急小口資金		941	965	955	977	14,772
	緊急小口資金(通常)	941	965	955	977	976
	緊急小口資金(特例)					13,796
生活復興支援資金		9	9	9	9	8
教育支援資金(修学資金)		1,884	2,039	2,213	2,395	2,598
更生資金		56	53	52	50	47
障害者更生資金		14	13	12	10	9
生活資金		14	14	12	12	11
住宅資金		33	30	29	26	24
療養・介護等資金		41	40	39	39	37
災害援護資金		1	1	1	1	1
離職者支援資金		119	114	109	108	105
不動産担保型生活資金		5	5	5	4	4
要保護世帯向け不動産担保型生活資金		11	11	14	15	15
合計		5,244	5,446	5,586	5,789	35,893

別表4

生活福祉資金の貸付支出に対する償還の割合(不動産担保型生活資金を除く)

令和3年3月末日現在

(単位:円)

資金種類	貸付金支出累計(A)	償還金収入累計(B)	B/A
総合支援資金	11,604,402,373	425,688,382	3.67%
通常貸付	1,662,616,373	419,287,902	25.22%
特例貸付	9,941,786,000	6,400,480	0.06%
福祉資金	1,078,441,807	818,719,870	75.92%
緊急小口資金	2,848,182,000	141,274,243	4.96%
通常貸付	198,822,000	128,192,627	64.48%
特例貸付	2,649,360,000	13,081,616	0.49%
生活復興支援資金	4,559,886	1,503,210	32.97%
教育支援資金	2,841,718,737	1,131,431,087	39.82%
更生資金	980,305,078	849,888,024	86.70%
(障害者)更生資金	1,116,559,711	1,065,374,298	95.42%
生活資金	59,457,271	50,572,734	85.06%
福祉資金(住宅)	1,853,637,265	1,795,431,091	96.86%
療養・介護等資金	129,056,013	108,398,884	83.99%
災害援護資金	35,243,918	31,809,413	90.26%
離職者支援資金	309,974,000	174,995,535	56.45%
合 計	22,861,538,059	6,595,086,771	28.85%

臨時特例つなぎ資金の貸付支出に対する償還の割合

令和3年3月末日現在

(単位:円)

資金種類	貸付金支出累計(A)	償還金収入累計(B)	B/A
臨時特例つなぎ資金	8,362,000	5,412,310	64.73%

【地域福祉部門】

<地域福祉グループ>

(滋賀県ボランティアセンター)

(滋賀県災害ボランティアセンター)

④ 緊急小口資金等特例貸付の実施

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、貸付の対象世帯を低所得世帯以外に拡大し、休業や失業等により生活資金でお悩みの方々に向けた、緊急小口資金等の特例貸付を行った。

(1) 緊急小口資金等特例貸付事業の実施状況

①緊急小口資金	14,022 件	2,667,911,000 円
②総合支援資金	17,212 件	12,588,946,000 円
	【新規（延長含む）】	12,142 件 9,896,016,000 円
	【再貸付】	5,070 件 2,692,930,000 円

(2) 特例貸付にかかる市町社協担当者等会議の開催

①市町社協担当管理職会議

開催日 5月27日（水）

方式 オンライン

②第1回市町社協担当者会議

開催日 8月5日（水）

場所 センター

③第1回自立支援機関・市町社協合同担当者会議

開催日 10月6日（火）

場所 センター

④第2回市町社協担当者会議

開催日 10月15日（木）

場所 センター

⑤第2回自立相談支援機関・市町社協合同会議

開催日 2月10日（水）

場所 センター

⑥第3回市町社協担当者会議

開催日 3月30日（火）

方式 オンライン

④ コロナ禍における生活困窮者支援調査研究の実施

コロナ禍における生活困窮世帯の実態と支援の方向性を明らかにするため、特例貸付利用者世帯の状況分析等を行い、課題解決の方向性を検討し、報告書を作成した。

(1) 総合支援資金特例貸付の延長貸付利用世帯の状況分析世帯分析

①対象者 4,737 名

②分析内容 年齢・性別、世帯構成、就労状況、健康状態等

(2) 調査研究委員会等の開催

①回数 2回

②検討内容 分析項目、分析の視点結果、レポート構成内容等

(3) 実態調査レポートの作成

①構成

I コロナ禍における生活困窮者の実態

- ・総合支援資金特例貸付等から見える滋賀の現状
- ・総合支援資金特例貸付の延長貸付利用世帯の状況分析
- ・総合支援資金特例貸付の延長貸付利用世帯の個別事例
- ・総合支援資金特例貸付利用者の相談したいこと、悩みや課題
- ・コロナショック！滋賀の子どものほほえむ力サポート事業

(滋賀県社会福祉協議会の自主事業)

暮らしのおたずね票調査結果（ひとり親世帯）

II 今後の生活困窮者支援に向けて

- ・コロナ禍における生活困窮者支援に関する調査研究委員会委員からの意見・提案
- ・調査結果等を踏まえた、滋賀県社会福祉協議会の取組み

②作成部数 1,200 部

③配布先 県・市町行政、市町社協、縁特別会員、本会会員、公立図書館等

1 広報誌「季刊ひたすらなるつながり」の発行

<第5号>

発行月 令和2年10月発行

部数 4,000部

特集 コロナ禍・ウイズコロナ社会における福祉のこころとかたち

2 ひたすらなるつながりフォーラムの開催

第39回滋賀県社会福祉学会シンポジウムにて開催（別掲）

3 縁アカデミー開学に向けた準備

(1) 運営委員会の開催

<第1回>

開催日 令和2年11月4日（水）

会場 センター

<第2回>

開催日 令和3年2月12日（金）

会場 センター

(2) プレ企画の実施

①今だからこそつながりミーティング (zoomによるweb会議)

<第1回>

開催日 令和2年6月22日(月) 18:30~19:30

参加者 11名

<第2回>

開催日 令和2年6月24日(水) 14:00~15:00

参加者 10名

②コロナ禍時代におけるこれからの共生社会を創造する滋賀の福祉人セミナー(会場参加・オンライン併用)

開催日 令和2年8月11日(火)

会場 センター

講師・登壇者

児童養護施設小鳩の家 施設長 山田 宗寛

同志社大学 教授 空閑 浩人

大津市社会福祉協議会 事務局次長 山口 浩次

関西学院大学 教授 藤井 博志

同志社大学 准教授 野村 裕美

近江八幡市社会福祉協議会 地域福祉課長 重野 弘樹

特別養護老人ホームふじの里 施設長 落川 貴生

伊香立の杜 木輝 主任 藤井 美沙子

さざなみ学園 副主任 須田 健太郎

同志社大学 名誉教授 上野谷 加代子

参加者 会場参加21名、オンライン参加15名

③「ゆっくりじっくりケースメソッド～“考える”を振り返る事例学習会」(オンラインゼミ)

【第1回】令和2年11月25日(水) 16:40~18:10

【第2回】令和2年12月16日(水) 16:40~18:10

講師 同志社大学 准教授 野村 裕美

受講者 滋賀の社会福祉実践者8名+院生約10名

④上野谷加代子先生の「地域福祉特講」(Web配信)

開講時期: 地域福祉特講①1月29日~3月12日

地域福祉特講②3月22日~4月16日

講師 同志社大学 名誉教授 上野谷 加代子

内容 「地域福祉って何?」、「地域福祉の構成要素」、「これからの地域福祉は?」、

「実践としての地域福祉～滋賀の縁創造実践センターの実践から～」、

「制度の狭間って?」

4 市町社協会長会との協働による縁架け橋の推進

(1) 市町社協事務局長・管理職合同セミナーの開催

開催日 令和3年1月14日(木)

会場 ピアザ淡海

参加人数 30名

内容

講演「包括的な支援体制の構築と重層的支援体制整備事業」
～市町社協は、支援が必要な人をどのように把握し、誰とどのように動いて支援していくのか～
講師 同志社大学 社会学部 教授 永田 祐

(2) 市町社協管理職会議の開催

別掲

(3) 市町社協新任職員研修の実施

開催日 令和3年1月22日（金）
会場 水口社会福祉センター（甲賀市社会福祉協議会）
参加人数 35名
内容「社協の歴史や役割を学ぶ講義、先輩職員の実践報告、ワークショップ」
講師 佛教大学 福祉教育開発センター 金田 喜弘

(4) コミュニティワーク基礎研修の実施

開催日 令和3年1月7日（木）
会場 県立長寿社会福祉センター
参加人数 14名
内容「コミュニティワークの基本、コロナ禍における社協実践の工夫等についての講義・演習」
講師 武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科 教授 松端 克文

5 生活困窮者支援担当者研修会（都道府県研修）の開催

生活困窮者自立支援制度における支援員等が求められる倫理と基本姿勢を学び、専門職として必要なソーシャルワークの基本を習得することを目的に開催した。

<1日目>

開催日 令和3年1月28日（木）
会場 ピアザ淡海
参加者 23名

<2日目>

開催日 令和3年2月3日（水）
会場 センター¹
参加者 20名

<講師> 同志社大学 社会学部 社会福祉学科 教授 空閑 浩人

6 民生委員児童委員研修（県及び大津市委託事業）の実施

(1) 民生委員・児童委員新任研修（動画配信）

配信期間 令和2年12月1日（火）～12月31日（木）
予備研修
開催日 令和2年12月16日（水）、17日（木）

会 場 県立長寿社会福祉センター
内 容 動画「民生委員・児童委員の“つながる力”とその魅力」
講 師 合同会社 泉恵造研修企画工房 代表社員 泉 恵造
参加者 1,433名
(受講方法：個人受講 350名・市町民児協 1042名)
予備研修 16日 31名 予備研修 17日 11名

- (2) 民生委員・児童委員指導者（会長）研修（動画配信）
動画期間 令和2年10月1日（木）～10月30日（金）
予備研修
開催日 令和2年10月29日（木）
会 場 県立長寿社会福祉センター
内 容 動画「民児協組織の灯台、そして委員の灯台守になろう！」
講 師 合同会社 泉恵造研修企画工房 代表社員 泉 恵造
参加者 141名
(受講方法：個人受講 37名・市町民児協 94名・予備研修 10名)

- (3) 主任児童委員研修
開催日 令和2年11月11日（水）
会 場 男女共同参画センター“G-NET しが”
内 容 講義「学校や関係機関と主任児童委員の連携～地域における家庭教育支援チームについて～」
講 師 滋賀県教育委員会事務局 生涯学習課 主査 岩脇 俊博
参加者 132名

- (4) 民生委員・児童委員人権研修
開催日 令和2年12月3日（木）
会 場 男女共同参画センター“G-NET しが”
内 容 講義「地域における男女共同参画推進
～歴史がたどる男女共同参画の今とこれから～」
講 師 京都産業大学現代社会学部 教授 伊藤 公雄
参加者 121名

（滋賀県ボランティアセンター）

1 企業・団体の社会貢献活動の推進

- (1) 淡海フィランソロピーネット
① 副運営委員長・事務局書記会議の開催
2回開催（令和2年6月11日（木）、8月28日（木））
② 運営委員会の開催
2回開催（令和2年7月20日（月）（書面議決日）、10月27日（火）
③ 総会（書面決議）の開催
議決日 令和2年8月21日（金）

④ 会員研修の開催

開催日 令和2年11月25日（水）

形式 オンライン

参加者 18名

内容

講演「生協くまもとの支援活動について」

～コロナ禍における災害支援活動を考える～

講師 生活協同組合くまもと 代表理事 副理事長

迫 和久

（2）企業・団体の社会貢献活動セミナー

開催日 令和3年3月23日（水）

形式 オンライン

参加者 60名

講演 「感染症を踏まえたBCP（事業継続計画）策定のポイント

講師 SOMPOリスクマネジメント株式会社

リスクマネジメント事業部

BCMコンサルティング 上級コンサルタント

宮田 桜子

2 各市町ボランティアセンターとの連携推進

①ボランティアコーディネーター連絡会議の開催

開催日 令和3年2月10日（水）

場所 センター

内容 市町社協（彦根市、長浜市）からの実践報告

コロナ禍におけるボランティアセンターの工夫、

福祉教育の進め方

除雪ボランティアについての意見交換

②しがボランティア（ホームページ）による広報啓発

延べ訪問者数 135,692件

実訪問者数 54,897件

3 教職員介護等体験事業の実施

①体験者数 103名

②受入施設数 45施設

③受入施設種別及び体験者数

施設種別	受入施設数	体験者数
生活保護施設	0	0
老人福祉施設	29	75

児童福祉施設	2	4
老人保健施設	0	0
障害者福祉施設	14	24
合計	45	103

4 滋賀県ボランティアセンター運営委員会の開催

開催せず

5 県民や関係団体への資機材の貸出

貸出機材	貸出件数	貸出件数
ビデオ・DVD	4	4
点字版	70	3
車椅子	18	169
白杖	0	0
その他（防災学習資材等）	1	1

（滋賀県災害ボランティアセンター）

1 県災害ボランティアセンターの運営

（1）災害ボランティアセンター運営協議会の開催

ア 運営協議会

＜第1回＞

開催日 令和2年9月2日（水）

形式 オンライン

内容 令和元年度の取り組み報告について

令和2年度の取り組みについて

県総合防災訓練・県災害ボランティアセンター機動運営

訓練について

各構成団体の取り組みについて（情報交換）

＜第2回＞

開催日 令和2年11月5日（木）

形式 オンライン

内容 県総合防災訓練・県災害ボランティアセンター機動運営訓練実施結果

を踏まえた県災害ボランティアセンターの運営体制強化について

災害ボランティアセンターコーディネーター基礎研修（仮）について

災害ボランティアセンター経費の国庫負担について

各構成団体の取組みについて（情報交換）

（2）機動運営訓練の実施

開催日 令和2年9月20日（日）

会場 県危機管理センター（オンライン併用）
内容 新型コロナウイルス感染拡大した状況での地震・水害複合災害
発生を想定のもと、支援困難な状況への対応を確認した
参加者 18名
指導者 福祉防災サポートオフィス未来 代表 栗原 英文

2 県災害時要配慮者支援ネットワーク会議の開催（全体会議）

開催日 令和3年2月8日（月）
会場 県危機管理センター（オンライン併用）
内容
実践報告I 「平成30年7月豪雨における支援活動」
～障害のある方の支援と子どもの居場所づくりを中心に～
報告者 広島県三原市社会福祉協議会 障害福祉課 係長 柳原 純
実践報告II
「障害者・家族における防災意識に関する実態調査」結果
報告者 滋賀肢体障害者の会「みづのわ」 代表 片山 雅崇
<コーディネーター>
福祉防災サポートオフィス未来 代表 栗原 英文
参加者 103名（会場54名、オンライン49名）

3 えにしの日の取組み推進

- (1) えにし週間期間 3月4日（木）～3月18日（木）
- (2) 取組み団体 17団体
- (3) 重点取組 コロナ禍における災害対策
計画・マニュアルの点検
子どもの防災教育

4 しがDWA Tチーム員養成研修の開催

- (1) 養成研修
 - ①第1回
<南会場>
開催日 令和2年7月3日（金）
会場 県危機管理センター
参加者 43名
 - <北会場>
開催日 令和2年7月4日（土）
会場 米原公民館
参加者 21名

<南北会場共通>

内容 災害時における要配慮者の状況、D W A T の機能と実際の支援展開を学ぶ講義・演習

講師 福祉防災サポートオフィス未来 代表 萩原英文

一般社団法人 Wellbe Design 理事長 篠原辰二

修了者 64名

②第2回

<南会場>

開催日 令和2年11月2日（金）

会場 県危機管理センター

参加者 25名

<北会場>

開催日 令和2年11月3日（土）

会場 米原公民館

参加者 20名

<南北会場共通>

内容 災害時における要配慮者の状況、D W A T の機能と実際の支援展開を学ぶ講義・演習

講師 福祉防災サポートオフィス未来 代表 萩原英文

一般社団法人 Wellbe Design 理事長 篠原辰二

修了者 45名

(2) フォローアップ研修

①第1回

開催日

令和2年12月21日（月）

会場

滋賀県危機管理センター

参加者

14名

内容

京都府災害派遣福祉チーム（京都D W A T）からの報告

報告者

京都府災害時要配慮者避難支援センター事務局

京都府健康福祉部 地域福祉推進課 主事 丹下 ねね

学校法人 明治東洋医学院

明治国際医療大学付属ケアプランセンター 今中 智子

②第2回

開催日

令和3年2月9日（火）

会場

滋賀県危機管理センター

参加者

16名
 内容
 報告「岩手県災害派遣福祉チームにおける図上訓練について」
 報告者 社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会
 岩手県災害派遣福祉チーム事務局
 福祉経営支援部 福祉経営支援グループ
 主査 菊池 伸哉
 協議「えにしの日企画 滋賀県災害派遣福祉チーム
 (しがDWAT) チーム員の図上訓練について」
 報告「滋賀県災害派遣精神医療チーム (D P A T)
 の活動内容について」
 報告者 滋賀県健康医療福祉部 障害福祉課
 主査 池田 健太郎

(3) チーム員登録状況

109名登録

【主な保有資格】

社会福祉士	介護福祉士	介護支援専門員	保育士	精神保健福祉士	管理栄養士
11名	39名	26名	23名	4名	6名

(4) しがDWATチーム員図上訓練

実施日

令和3年3月11日(木)

会場

県危機管理センター

参加者

21名

内容

チーム員参集訓練、先遣隊訓練(避難所におけるアセスメント)

指導者

福祉防災サポートオフィス未来 代表 栗原英文

<はぐくみグループ>

1 子どもの笑顔はぐくみプロジェクトの推進

(1) 子どもの笑顔のスポンサー活動の推進

①企業・団体および個人のスポンサー登録の推進

新規 団体5件、個人18件 計490件 (企業・団体410件 個人80件)

②滋賀県内郵便局との包括連携協定に基づく取組み

ア. ワークショップ(令和2年度はコロナ禍により手作りキットの貸出等) 2回

・石山わくわく広場 参加者 33名

開催日 令和2年12月20日(日)

- 場 所 石山公民館
内 容 絵はがきワークショップ（キットの貸出）
・まごころレストラン 参加者 お弁当30食分
開催日 令和2年12月22日（火）
場 所 瀬田東公民館
内 容 手紙の書き方bookや郵便局グッズのプレゼント
- イ. 子ども食堂フェスタへの参画
開催日 令和2年11月21日（土）
場 所 県立長寿社会福祉センター
内 容 缶バッチ作成、絵ハガキワークショップ
- ウ. 滋賀の子どものほほえむ力サポート事業
緊急支援募金箱設置協力 設置期間：令和2年8月1日～9月30日 21局
③はぐくみ基金への寄付推進、クラウドファンディング等新たな手法による取組み
ア. クラウドファンディングの初の取組み
滋賀の子どものほほえむ力サポート事業
・緊急支援募金箱 約460か所設置（企業、団体、行政機関、郵便局、福祉施設等）
 寄付金額 1,808,242円
・掲載サイト READYFOR
 実施期間 令和2年9月1日（火）～10月30日（金）
 寄付金額 489,000円（33件）
- イ. はぐくみ基金への寄付収納（物品等金額換算分を含む） 39,484,974円
うち滋賀の子どものほほえむ力サポート事業 緊急支援募金 9,045,796円（162件）
その他（収納外） 県からコロナ禍における子ども食堂支援（マスク、アルコール消毒液、弁当容器等）
- ④スポンサーからのサポート（提供）に係るマッチング
ア. NPO法人レイカディアえにしの会との覚書による寄付物品集計や仕分け（1回）
イ. セブン-イレブン・ジャパンからの寄付物品の仕分け（4回）

（2）広報啓発活動の推進

- ①「はぐプロ通信」等の発行
・「はぐプロ通信 特別号」（令和2年4月発行）
・「遊べる・学べる淡海子ども食堂 新型コロナウイルス対策ハンドブック★これ、だいじ★」
 （令和2年6月発行）
・「はぐプロ通信 特別号②」（令和3年3月発行）
②「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」ホームページ、facebookの運営
③啓発活動の実施 ※コロナ禍のため実施なし

2 子ども食堂地域インフラ化の推進

滋賀ならではの地域活動（防災、健康、文化）を担っている団体等と子ども食堂をつなぎ、「遊べる・学べる淡海子ども食堂」の付加価値（遊びや学びという子どもの育ちを後押しする要素が豊かになること）づくりに取組んだ。

（1）子ども食堂図書室

新規1か所（豊郷町）、他1か所で開設に向けた調整、県内の実施状況の情報収集

- （2）子ども保健室 ※コロナの影響で実施なし
（3）子ども防災教室 ※県防災危機管理局と研修会予定がコロナ禍のため実施なし
（4）子ども食堂提案プログラム ※コロナの影響で実施なし

- (5) 農業者と子ども食堂とのマッチング 隨時
- (6) 子ども食堂の複合的価値に関する調査研究（さくら・えにしプロジェクト）
特定非営利活動法人全国こども食堂支援センターむすびえとの共働で実施した。
- ①オンラインワークショップ・ミーティング
期 間 令和2年8月～令和3年3月 15回
- ②県社協セオリー構築ワークショップ 【職員向け】
- <第1回>
開催日 令和3年2月5日（金）
場 所 県立長寿社会福祉センター
参加者 9名（むすびえ・事務局）
- <第2回>
開催日 令和3年3月18日（木）
場 所 県立長寿社会福祉センター
参加者 7名（むすびえ・事務局）
- ③滋賀の子ども食堂の価値を考えようワークショップ 【子ども食堂向け】
開催日 令和3年2月4日（木）
場 所 県立長寿社会福祉センター
参加者 12名（むすびえ・事務局除く）
- ④MSCワークショップ 【子ども食堂向け】
開催日 令和3年3月18日（木）
場 所 県立長寿社会福祉センター
参加者 13食堂17名（むすびえ・事務局除く）

3 子ども食堂つながりネットワーク SHIGA の活性化

地域会議への参画および相談対応を行うなど、子ども食堂とつながりネットワーク化を図った。

加入団体数 142 食堂（うち新規加入団体 12 件）

（1）学びの場・交流の場の提供

①開設準備講座の開催 ※コロナ禍により実施なし

②子ども食堂実践者研修会の開催

テーマ：「食品衛生～より安心・安全な子ども食堂にするためのポイントをおさえよう～」

講師：一般社団法人 滋賀県食品衛生協会 専務理事 林 宏一氏

ア. 南会場

開催日 令和2年10月27日（火）
場 所 県立長寿社会福祉センター
参加者 24名

イ. 北会場

開催日 令和2年10月28日（水）
場 所 ビバシティ彦根
参加者 9名

③子ども食堂交流会の開催

開催日 令和3年3月18日（木）※さくらプロジェクトWSと同時開催
場 所 県立長寿社会福祉センター
参加者 17名（11食堂12名、市社協5名）

④子ども食堂フェスタの開催

開催日 令和2年11月21日（土）

場 所 県立長寿社会福祉センター
参加者 323名（スタッフ含む）
内 容 子ども食堂カレーサミット、ステージコーナー、遊びコーナー 等

（2）新規立ち上げ子ども食堂の支援

- ①開設支援助成審査会 5回（7月、9月、11月、1月、3月）
②子ども食堂立ち上げ資金の助成 11食堂

（3）安心・安全確保事業（子ども食堂保険加入促進事業） 助成：33件

4 社会福祉法人等と共に働くフリースペースの推進

（1）フリースペース推進委員会の開催 ※コロナの影響により実施なし

（2）他法人との共働によるフリースペース事業の推進

フリースペースの開催のため、5か所助成を行った。

（3）フリースペース運営者・子ども支援関係期間の研修交流会 ※コロナ禍のため実施なし

5 生活支援体制整備事業の推進

（1）生活支援コーディネーター基礎研修の実施

開催日 令和2年12月4日（金）

場 所 近江八幡市文化会館

参加者 61名

内 容

- ・県説明 「生活支援体制整備事業と生活支援コーディネーターの役割について」
報告者 健康医療福祉部医療福祉推進課 松田 浩明
- ・講 義 「地域福祉の推進における生活支援コーディネーターの役割」
講師 武庫川女子大学文学部教授 松端 克文
- ・事例報告 「行政と社協が協働して取り組むことの意義」
東近江市 健康福祉部 福祉総合支援課 森 佳子

「実践から学ぶ生活支援コーディネーターの役割」

東近江市社会福祉協議会 中西 知史

- ・グループワーク

（2）生活支援コーディネーター学習・情報交換会の開催

①【南会場】

開催日 令和2年12月11日（金）

場 所 県立長寿社会福祉センター

参加者 37名

②【北会場】

開催日 令和2年12月14日（月）

場 所 ビバシティ彦根

参加者 36名

内 容

- ・報 告 「コロナ禍と活動に関するアンケートについて」
南会場：NPO法人街かどケア滋賀ネット理事長 谷 仙一郎
北会場：NPO法人街かどケア滋賀ネット理事 成瀬 和子
- ・講 義 「コロナ禍でみえてきた生活支援コーディネーターの課題と役割」
講師 武庫川女子大学文学部教授 松端 克文
- ・事例報告 「コロナ禍における生活支援コーディネーターの役割」
南会場：西宮市社会福祉協議会 小藪 真彦
北会場：大阪市社会福祉協議会 田淵 章大
- ・情報交換 「コロナ禍における活動の情報交換」

(3) 生活支援体制整備事業推進会議の開催

生活支援体制整備事業推進会議を3回開催した。
 開催日 令和2年10月22日（水）、12月25日（金）、令和3年3月8日（月）
 場 所 県立長寿社会福祉センター ※10月22日はZoomにて開催

6 滋賀県保育協議会との縁架け橋共働プロジェクトに関すること

- (1) 男性保育者プロジェクト企画会議の開催 2回
 開催日 令和2年10月21日（火）、令和3年1月21日（木）
 場 所 県立長寿社会福祉センター
- (2) 自主グループ「保育・夢・男dyism」の活動支援
 オンライン合宿の協力 令和2年8月8日（土）～9日（日）
- (3) 子ども食堂フェスタへの参画
 男性保育者プロジェクトとしてステージコーナー・遊びコーナーを運営

7 中高年障害者の休日の居場所づくり（県障害者自立支援協議会との共働）

- (1) 中高年障害者の伊庭世づくり事業推進委員会の開催 ※コロナ禍のため実施なし
- (2) 分野を越えた法人連携等による居場所づくりの推進 ※コロナ禍のため実施なし

8 重度障害者生活支援プロジェクト（県障害者自立支援協議会との共働）

- (1) 重度障害児者の入浴支援事業推進委員会の開催
 - ①事務局会議の開催 4回
 - ②推進委員会の開催 2回 令和2年10月6日（金）、令和3年3月2日（火）
- (2) 入浴支援推進研修会（行政向け、施設向け） ※コロナ禍のため実施なし
- (3) その他
 - ①要医療的ケア重度障害児者の入浴支援の制度化に向けた実態調査の実施
 時 期 6月～8月
 方 法 県内各相談支援事業所への調査票による
 回答数 12事業所（該当者37人）
 - ②「医療ケアを必要とする重症心身障害児者の入浴支援に関するヒアリング」の実施
 実施日 令和2年12月23日（水）
 場 所 しうがい相談支援事業所ナノハナ

参 加 4事業所（相談員7人）、推進委員・事務局5人

9 滋賀の子どものほほえむ力サポート事業

コロナウイルス感染症の影響により困窮している世帯の子どもたちへのプレゼントができるよう、令和2年6月10日から県民のみなさんに寄付金を呼びかけ、集まった寄付金と本会「はぐくみ基金」、県の補助金により事業を実施した。 計6,621世帯に商品券発送

（1）商品券等の贈呈実績

①特例貸付利用で中学生以下の子どもがいる世帯

商品券発送 1,393世帯／案内通知 令和3年1月末までの利用の世帯2,925世帯

②ひとり親で中学生以下の子どもがいる世帯

商品券発送 5,228世帯／児童扶養手当受給資格者11,185世帯

（2）緊急支援募金（募金箱、寄付、クラウドファンディング）

9,045,796円（162件+CF33件）

（再掲）募金箱107件+振込等55件（5,654,344円/商品券2件（計3,000,000円）

10 子どもの貧困対策全国キャラバンin滋賀の共催

公益財団法人あすのばが主催する全国キャラバンを県と共に共催し、生きづらさを抱える子ども・若者の声に触れ、彼らが生きやすくあるための地域をつくる人と実践、支える制度の充実について共に考え、理解を深めた。

開催日 令和3年3月22日（月）

場 所 滋賀県庁

主 催 あすのば 共 催 滋賀県、県社協

参加者 会場参加110人、オンライン60人

内 容 ①滋賀の子ども・若者からのメッセージ

②現場からのリレートーク

③鼎談（三日月大造滋賀県知事、小河光治あすのば代表、渡邊光春本会会長）

④意見交換会～子ども・若者の声を聞いて一緒に考えよう～

＜地域生活グループ＞

（滋賀県権利擁護センター）

（滋賀県運営適正化委員会事務局）

1 ひきこもり者と家族が孤立しない地域支援体制づくり事業

（1）ひきこもり電話相談の実施

①定期電話相談窓口の設置

甲賀・湖南ひきこもり支援『奏一かなでー』との共働で継続的な電話相談を実施した。

実施曜日・時間 毎週木曜日12時～18時

相談件数 191件（新規44件、継続76件、問合3件、調整51件、見守11件、再開6件）

②一斉電話相談の実施

コロナ禍の中、ひきこもりに悩む当事者や家族の不安感を少しでも和らげるため7機関が協働し一斉電話相談を3回実施し、計35件の相談があった。

実施日（1回目） 令和2年7月30日（木）、31日（金） 相談件数16件

（2回目） 令和2年11月26日（木）、27日（金） 相談件数8件

(3回目) 令和3年3月18日(木)、19日(金) 相談件数11件
実施機関 (福)さわらび福祉社会甲賀・湖南ひきこもり支援『奏一かなでー』、高島市社会福祉協議会「つながり応援センターよろず」、(福)虹の会、大津市社会福祉協議会、彦根市社会福祉協議会、甲賀市社会福祉協議会、県社協

(2) 保健福祉圏域における“奏モデル”の推進（3圏域）

訪問支援（アウトリーチ）を3圏域で実施した。

①甲賀圏域 甲賀・湖南ひきこもり支援『奏一かなでー』による個別支援の実施

支援対象者：103人（新規相談ケース：39件）

本人 訪問〔面談〕60件、訪問以外の面談51件、電話・メール90件

家族支援 訪問〔面談〕30件、訪問以外の面談32件、電話・メール148件

ケース会議 12件

ひきこもり一斉電話相談を活用した関係機関との協働実施

②高島圏域 (福)虹の会による個別支援の実施

支援対象者：12人（新規相談ケース：4件）

本人 訪問〔面談〕59件、

家族支援 訪問〔面談〕4件、訪問以外の面談2件

ケース会議 8件

③湖東圏域（彦根市域）

ア. 南彦根クリニックによる個別支援の実施

支援対象者：11人（新規相談ケース：5件）

家族支援 訪問〔面談〕1件、訪問以外の面談23件、電話・メール6件

ケース会議 11件

イ. 彦根市社会福祉協議会による個別支援の実施

支援対象者：16人（新規相談ケース：16件）

本人 訪問〔面談〕40件、訪問以外の面談10件、電話・メール20件

家族支援 訪問〔面談〕60件、訪問以外の面談10件、電話・メール10件

ケース会議 6件

(3) 保健福祉圏域におけるひきこもり支援関係者のネットワークづくり

①ひきこもり支援を考えるフォーラムの開催

地域の理解促進とひきこもり支援に関わる関係機関が連携・協働するきっかけとして、ネットワーク会議（大津・草津・栗東・守山・野洲の各市社協）を設置し、フォーラムを開催した。

開催日 令和3年3月21日(日)

会場 野洲市図書館 ホール

参加者 50人（会場参加者27人、オンライン23人）

②各圏域のひきこもり支援に関わるネットワーク会議に参加

県ひきこもり支援センターとの連携のもと、各圏域のひきこもり支援に関わるネットワーク会議に参加し、情報提供・電話相談ケースに関わる支援調整・支援者研修への支援等を行った。

ア. ネットワークづくり

ひきこもり支援に関わる関係機関と連携し、課題意識を共有し、必要な取り組みの方向性について意見交換を行い、入口から出口まで連携した支援を実施するためのネットワークづくりを行った。

・甲賀・湖南ひきこもり支援『奏一かなでー』

運営会議(3回)、アウトリーチ・奏サロン、家族支援部会(2回)

・高島市社会福祉協議会「つながり応援センターよろず」

つながり応援支援者ネットワーク会議(2回)

- ・彦根市社会福祉協議会
ひきこもり支援ネットワーク会議の開催（年2回）
 - イ. 電話相談ケースに関わる支援調整
 - ・各圏域の関係機関への連絡調整
 - ・ケース会議の開催（野洲市、草津市、栗東市）
 - ウ. 支援者研修への支援等
 - ・長浜市社会福祉協議会と協働で支援者向け研修会を開催
協力機関（福）さわらび福祉会 2回
- ③アウトリーチ相談支援活動への支援
3圏域へ助成：甲賀圏域・高島圏域・湖東圏域（彦根市域）
- ④サロンや居場所づくり活動、はたらく体験の場づくりへの支援 2法人へ助成
ア. 大津市社会福祉協議会
イ. （福）虹の会
 - ・居場所づくり 240回 のべ449人
 - ・はたらく体験 153回 のべ153人
 - ・家族茶話会 5回 のべ 16人
- ⑤家族サロン、家族教室の合同開催及び活動支援

（4）県域でのひきこもり支援関係者情報交換会の開催

ひきこもり支援・働きづらさ支援推進委員会を2回開催した。

実施日・場所 令和2年7月22日（水）（福）八身福祉会 葉菜屋
令和3年1月26日（火）オンライン会議

参画機関 彦根市社協・長浜市社協・野洲市社協・県社会就労事業振興センター・県地域若者サポートステーション・（福）八身福祉会・（福）さわらび福祉会・（福）虹の会・県ひきこもり支援センター・県障害福祉課

（5）県域での家族交流会

圏域を超えて誰もが利用しやすく、安心して参加でき、そして互いに共感し自己肯定感を感じができる場として家族教室を実施した。

①滋賀県域（2回）

ア. 第1回 参加者1人

開催日 令和2年11月28日（土）

登壇者 甲賀・湖南ひきこもり支援『奏-かなで-』と当事者の母親

イ. 第2回 参加者4人

開催日 令和2年3月6日（土）

講 師 阿星山診療所 本谷研司先生

②【出張型】高島圏域（福）虹の会と共同開催

参加者5人

開催日 令和2年3月13日（土）

登壇者 甲賀・湖南ひきこもり支援『奏-かなで-』と当事者の母親

（6）民生委員児童委員ひきこもり支援のための研修会

民生委員児童委員を対象に、ご本人や家族が求める支援のあり方等を伝えるとともに、居場所づくりや家族交流会の活動を支えるための研修会を行った。

開催日 令和2年11月24日（火）、12月1日（火）、12月9日（水） 3日間

会 場 県立長寿社会福祉センター（3日目のみ明日都浜大津）

参 加 者 35人

内 容 ・社会参加に困難を有する方の現状について

・ひきこもりとは

・ひきこもり支援の在り方

- ・ひきこもり支援の第一歩
- ・ひきこもり支援の現場から
- ・傾聴について学ぶ
- ・グループワークで支援の関わり方を考える

講 師 岡山県立大学 准教授 周防美智子
 甲賀・湖南ひきこもり支援『奏-かなで-』
 主任相談支援員 北出 篤嗣、利用者
 おうみ犯罪被害者支援 理事 松村裕美
 県社協職員

(7) 働く場づくり（はたらく体験）の推進

- ①県社協はたらく体験の企画実施

実施数	月1回 計12回
参加者	62人
内 容	発送、車いす・福祉用具整備清掃、イベント準備、パソコン入力等の作業 連携相談機関・団体 滋賀県地域若者サポートステーション、大津市社会福祉協議会、滋賀県ひきこもり支援センター、支援センターこのゆびとまれ
- ②支援（サポート）機関による支援プラン会議の開催 8回
- ③働く場を広げるための研修会の開催 コロナ禍により実施なし

(8) 「ひきこもり・働きづらさ支援」推進委員会の開催 2回

2 社会的養護の下で育つ若者と地域の架け橋づくり

(1) ハローわくわく仕事体験の実施

- ①協力企業等の開拓

協力企業・事業所数：171企業・事業所（新規開拓6企業・事業所）
- ②中高生の「ハローわくわく仕事体験」の実施

ア. 夏休み	参加者 13人（延べ15人）、実施協力企業 15社
イ. 冬休み	参加者 7人（延べ7人）、実施協力企業 7社
ウ. 春休み	参加者 6人（延べ6人）、実施協力企業 6社 計：延べ28人体験 28企業
- ③小学生の「工場・職場見学」の実施

ア. 夏休み	見学者 8人（延べ8人）、実施協力企業 6社
イ. 冬休み	※コロナ禍により実施なし
ウ. 春休み	見学者 2人（延べ3人）、実施協力企業 3社 計：延べ11人見学 9企業
- ④就労体験に向けたキャリアアップセミナーの開催

ア. 小中学生向け	1回実施 開催日 令和2年10月25日（日） 会 場 滋賀県立長寿社会福祉センター 第1研修室 内 容 《すきなものbingo&お仕事マップ》 ～夢！自分！発見！！ 自分を知り、社会を知り、自立する～ 講 師 NPO法人 くさつ未来プロジェクト 堀江 尚子 参加者 小中学生 28人、職員 21人 イ. 中高生向け	※コロナ禍により実施なし
-----------	--	--------------
- ⑤就労体験に向けたプロフェッショナルセミナーの開催

中高生向けを各児童養護施設（5施設）で実施した。

ア. 鹿深の家	開催日 令和2年11月21日（土）
---------	-------------------

参加者	児童 10 人 職員 13 人
協力企業	サン機工、八代製作所、味彩楽食もりや、はとがひら
イ. 守山学園	
開催日	令和 2 年 11 月 23 日 (月)
参加者	児童 11 人 職員 10 人
協力企業	富綜、たかはし、湖南オートセンター、マツヤ
ウ. さざなみ学園	
開催日	令和 2 年 11 月 29 日 (日)
参加者	児童 11 人 職員 10 人
協力企業	油藤商事、宮川バネ、小江戸彦根、八身福祉会
エ. 小鳩の家	
開催日	令和 3 年 12 月 6 日 (日)
参加者	児童 11 人 職員 6 人
協力企業	ベジカフーズ、アイムインターナショナル、ニューワンズ
オ. 湘南学園	
開催日	令和 3 年 12 月 12 日 (土)
参加者	児童 14 人 職員 15 人
協力企業	パン工房ロゼッタ、クサツパイオニアファーム、EGS、嶋本製作所
	参加者 計中高生 57 人、職員 54 人
	協力企業 計 19 企業

⑦小中学生向け「しがの子ども仕事体験 P A R K」 ※コロナ禍のため実施なし

⑧ハローわくわく仕事体験協力企業・事業所懇談会 ※コロナ禍のため実施なし

⑨啓発活動

「ハローわくわくニュースレター」を 3 回発行した。

- Vol. 8 令和 2 年 6 月発行 : 約 150 部
- Vol. 9 令和 2 年 11 月発行 : 約 150 部
- Vol. 10 令和 3 年 2 月発行 : 約 150 部

(2) アフターケア事業の推進

①新たな地域養護の仕組みづくりに関する検討

関係機関と検討・調整を進め、児童期から成人期に移行する中で制度の壁を始め自立を阻む多様な障壁に直面している社会的養護を経験した若者等に対し、関係者等が協働して生活支援、就労支援、居場所づくり、見守り等を行っていく取組を推進する、「滋賀県地域養護推進協議会」が設置された。

設立日 令和 3 年 3 月 26 日 (金)

②ほっとスポットへの助成 ※コロナ禍で活動休止のため助成なし

③退所後の社会生活にかかる自立相談支援事業との連携 (貸付金利用者)

児童養護施設を退所する際利用できる自立支援資金貸付について、利用検討の段階から施設職員や里親さん同席のもと相談の場を設け関係性を築いたり、利用後の見守りの一機関として、現状報告や相談を受け施設や里親さんと共に専門機関へ繋げたり、職場訪問するなどで相談支援を行った。

④児童養護施設等への巡回説明による「そらまめガイド」の活用推進

「自立支援資金貸付制度・そらまめガイド・ほっとスポット」説明会

- 小鳩の家 : 児童 6 人参加
- 湘南学園 : 児童 14 人参加、職員対象 2 回実施
- 守山学園 : 児童 8 人参加、職員対象 1 回
- 鹿深の家 : 児童 10 人参加、職員対象 1 回
- さざなみ学園 : 児童 10 人参加、特別支援学校高等部教師が参加

3 地域福祉権利擁護事業の推進

(1) 新任職員・生活支援員新人研修の実施

<1日目>

開催日 令和2年7月29日（水）
場 所 県立長寿社会福祉センター
参加者 22名
内 容 講義1「権利擁護とは」

講 師 特定非営利活動法人成年後見センターもだま 所長 竹村直人 氏
講義2「地域福祉権利擁護事業について」

講 師 本会 地域生活GL 加藤 芳顕

<2日目>

開催日 令和2年8月5日（水）
場 所 県立長寿社会福祉センター
参加者 27名
内 容 講義1「相談の基本を学ぶ」

講 師 おうみ犯罪被害者支援センター 理事 松村裕美 氏
グループワーク 「事業を実施するなかでわからないことや悩みを共有しよう」

(2) 地域福祉権利擁護事業専門員会議の開催 ※コロナ禍のため1回のみ開催

開催日 令和2年8月20日（水）
場 所 県立長寿社会福祉センター
参加者 19名
内 容 話題提供
• 大津市社会福祉協議会 権利擁護支援グループ 主事 杉浦由佳理 氏
• 龍王町社会福祉協議会 主事 井上澄重 氏
グループワーク

(3) 契約締結審査会の開催

<第1回>

開催日 令和3年2月1日（水）
場 所 県立長寿社会福祉センター
内 容 龍王町社会福祉協議会からの審査依頼 2件

<第2回>

開催日 令和3年3月15日（月）
場 所 センター
内 容 米原市社協からの審査依頼ケース（1件）に対する審査

(4) 権利擁護相談、障害者110番事業の運営

高齢者、障害者の権利擁護にかかる相談に対し、電話、面接により応じた。
なお、相談対応状況については、114件である。（詳細は下記のとおり）

① 一般相談件数

相談受付 件数	相談者			相談方法			
	本人	家族・親 族・知人	関係機 関他	電話	来所	訪問	その他
4月	5	4	1	0	5	0	0
5月	9	7	2	0	9	0	0
6月	16	16	0	0	15	0	1
7月	5	4	1	0	5	0	0
8月	4	3	1	0	4	0	0
9月	8	7	0	1	8	0	0
10月	13	10	3	0	13	0	0
11月	3	3	0	0	3	0	0
12月	20	18	1	1	19	1	0
1月	9	8	1	0	9	0	0
2月	10	8	2	0	9	1	0
3月	12	8	4	0	12	0	0
合計	114	96	16	2	111	2	1

<うち障害者110番>

- ア 知的障害者に関する相談 … 8件
- イ 精神障害者に関する相談 … 35件
- ウ 身体障害者に関する相談 … 5件

(5) 市町社協への支援

各市町社協の電話等による個別ケースへの助言を行ったとともに、運営適正化委員会が行う定期現地調査（近江八幡市、草津市、守山市、栗東市、甲賀市、日野町、愛荘町、多賀町）について協力を行った。

(6) 調査研究・広報活動

①圏域成年後見サポートセンター・権利擁護センターへの支援

- ア 連絡会の開催および出席

- ・長浜市成年後見・権利擁護センター(社協)運営委員会
- ・彦根市権利擁護サポートセンター運営委員会
- ・高島市成年後見サポートセンター(社協)運営委員会
- ・米原市権利擁護センター(社協)運営委員会
- ・成年後見センターもだま運営適正化委員会

- イ 市町・圏域権利擁護支援体制整備に関する支援

成年後見制度等なんでも相談会への協力

県内4圏域で実施され、職員の派遣を行った。

彦根（1回）、東近江（1回）、米原市（2回）、高島市（1回）

②広報活動

全社協発行「2020年日常生活自立支援事業推進マニュアル」配布

市町社協における権利擁護事業の適切な運営を支援するために購入・配布

配布部数 81部（市町社協へ配布）

4 第39回滋賀県社会福祉学会の開催

第2回ひたすらなるつながりフォーラムの開催

開催日 令和3年2月22日（月）

会 場 県立長寿社会福祉センター

参加者 146人（会場101人、オンライン45人）

内 容 集合型とオンラインを併用して開催

午前：自由研究発表（発表題数：22題）

午後：①特別基調講演 「新型コロナウイルス感染症対策の功罪」

講師 滋賀県健康医療福祉部 理事 角野文彦

②シンポジウム 「コロナ禍における地域のいまとこれから」
(シンポジスト)

(福)近江和順会 特別養護老人ホーム レーベンはとがひら 施設長 生田 雄

(福)八身福祉会 八身共同印刷 八身ワークショップ・葉菜屋 施設長 小島 滋之

(医)誠光会 介護事業局 副局長

指定居宅介護支援事業所きらら・ふれあい 部長 森本 清美

子ども食堂ひがしつこ 代表 小西 由美子

(コーディネーター)

(福)さわらび福祉会 理事長、滋賀県社会福祉協議会 理事 金子 秀明

③奨励賞の授与

(受賞者)

「眠りSCAN導入により見えたこと～睡眠と排泄の関係～」

社会福祉法人青祥会 介護老人保健施設 長浜メディケアセンター

西崎 清隆

「地域と支え合う事業所の活動」

米原市社会福祉協議会 東部デイサービスセンターはびろ

北川 麻美、加藤 麻美

「好きなものをきっかけとしたひきこもりからの卒業」

京都芸術大学 松崎 雛乃

「新しい福祉のチカラ～地域循環型未来食堂みんなの食堂の取り組みから見
えてきたこと～」 特定非営利活動法人 芹川の河童 川崎 敦子

「地域で共に暮らす人々がつながり合う地域社会の構築～かやぶき心における居場所づくりを通して～」

特定非営利活動法人 宅老所 心 中瀬 隆泰

5 研究誌「滋賀社会福祉研究第23号」の発行

発 行 令和3年2月

掲載内容 卷頭言 「コロナ禍における社会福祉経営」

滋賀県老人福祉施設協議会 会長 藤居 真

論 文

「滋賀県障害者差別のない共生社会づくり条例」の意義と共生社会づくり
への課題

認定NPO法人DPI（障害者インターナショナル）日本会議
副議長 尾上 浩二

災害時における福祉施設のマネジメント
びわこ学院大学 教授 烏野 猛

実践研究レポート

クリニカル・パールとは何か～滋賀の福祉人のパールを掘り当てる～
同志社大学 准教授 野村 裕美

第38回滋賀県社会福祉学会奨励賞レポート

口腔衛生管理の介入状況とその有用性について
(医)誠光会 介護老人保健施設草津ケアセンター

橋本 純子、辰巳 亜有美、藤田 さや華
社会医療法人誠光会 草津総合病院歯科口腔外科

金子 輝子、山口 芳功
利用者家族のニーズに対する柔軟なサービス提供のあり方を探る

(福)米原市社会福祉協議会
デイサービスセンター寄ろ家うかの 西川 雄也、杉山 晃平
重症心身障害者に対する抱え上げない介護の効果

(福)びわこ学園 障害者支援センター
重症心身障害者通所施設えがお 近藤 真美
施設を巣立った子ども達の追跡調査II
～滋賀県の児童養護施設を退所した若者の語りから見えてきたもの～
滋賀県児童福祉入所施設協議会調査研究部会 椋田 亮平
地域サロン支援とカルナ羊プロジェクトめえ
～地域における公益的な取組～

(福)慈照会 特別養護老人ホームカルナハウス
野田 香也子、中村 彩乃
地域福祉と共同募金改革～ご近所福祉ルネッサンス～

甲賀市共同募金委員会 (福)甲賀市社会福祉協議会
大倉 崇弘
ひきこもりがちな人の支援を通じて生まれた、地域住民との新しい出会い
(福)さわらび福祉会
甲賀・湖南ひきこもり支援『奏一かなでー』 北出 篤嗣

実践報告

COVID-19流行第二波期における当施設クラスター感染発生の状況と感染対策
(福)近江和順会 特別養護老人ホーム レーベンはとがひら
生田 雄、河岸 寛之

(医)社団美松会 生田病院 生田 邦夫

書評

永田 祐・谷口郁美 監修、佐藤桃子 編『子どもと地域の架け橋づくり』
滋賀県介護福祉士会 会長 口村 淳

(滋賀県運営適正化委員会事務局)

1 運営適正化委員会の運営

福祉サービスに関する苦情解決と福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）の適正な運営を確保するため、次のとおり委員会の運営を行った。

（1）選考委員会の開催

①第11期運営適正化委員会委員の改選

運営適正化委員会委員の任期の終了にともない選考委員において委員候補者を審査し、委員の改選をおこなった。

期　日 令和2年8月19日（火）

内　容 滋賀県運営適正化委員会選考委員会委員長の選任

滋賀県運営適正化委員会第11期委員候補者案の審査

（2）全体委員会の開催

開催日 令和2年9月29日（火）

会　場 県立長寿社会福祉センター

議　事 令和2年度事業報告、令和3年度事業計画 等

（3）苦情解決合議体の活動

福祉サービスに関する利用者等からの苦情解決を図るため、苦情解決合議体を次のとおり開催した。

①合議体の開催（4回開催）

	期　日	内　容
1	令和2年7月9日（木）	苦情案件の検討（協議・報告案件 9件）
2	令和2年8月25日（火）	苦情案件の検討（協議・報告案件 9件）
3	令和2年10月29日（火）	苦情案件の検討（協議・報告案件 12件）
4	令和3年1月22日（火）	苦情案件の検討（協議・報告案件 12件）

事情調査：0件

申し入れ：0件

あっせん：1件

知事通知：0件

虐待通報：0件

②福祉サービスに関する苦情相談の受付状況（月別）

苦情受付	相談助言	苦情解決の結果						その他問合せ等	合　計
		紹介伝達	あっせん	通知	事情調査	申入れ	継続		
繰越	1		1						1
4月	3	2		1				13	16
5月	1	1						13	14
6月	1						1	17	18

7月	0							17	17
8月	5		5					8	13
9月	2		2					16	18
10月	3		3					20	23
11月	1						1	11	12
12月	2	1	1					17	19
1月	3	1	2					4	7
2月	0							14	14
3月	0							20	20
合計	22	2	16	1	0	1	0	2	170
									192

※苦情受付件数は新規のみ計上

2 福祉サービスの苦情解決にかかる広報啓発

利用者、社会福祉事業の経営者等に対して、福祉サービスの苦情解決の仕組みや運営適正化委員会を幅広く周知し、利用者側から苦情等を相談しやすい環境づくりを進めるために、広報啓発をおこなった。

(1) 運営適正化委員会の周知

県社協ホームページでの広報を実施するとともに、随時、リーフレット等広報資料を県内社会福祉施設・事業者、行政、市町社協等へ配布。

(2) 福祉サービスの苦情に関する啓発

随時、リーフレットやポスター等啓発学習資料を事業者へ提供。

3 事業者段階における苦情解決の推進

(1) 福祉サービス事業者巡回指導の実施

事業所における苦情解決の推進を図るため、事業所への個別巡回訪問において苦情解決体制等について確認し、必要に応じて助言等をおこなった。

また、会議等の場で説明を行い、苦情解決の取り組みが一層進められるよう周知・啓発も併せておこなった。

	期 日	対象（種別）	内容等
1	令和2年6月 19日(金)	NPO法人 芹川の河童 [子ども・若者福祉分野]	運営、苦情解決体制説明
2	令和2年8月 31日(月)	社会福祉法人びわこ学園 [障害福祉分野]	虐待防止委員会にて周知

4 地域福祉権利擁護事業の適正な運営の確保

(1) 運営監視合議体の活動

福祉サービス利用援助事業（地域福祉権利擁護事業）の適正な運営の確保を図るため、運営監視合議体および現地調査を次のとおり実施した。

①合議体の開催（4回開催）

期　日	内　容
令和2年 8月 20日 (木)	・現地調査（上半期）の報告と助言事項の検討 ・現地調査（下半期）の実施について
令和2年 11月 19日 (木)	・現地調査（下半期）の報告と助言事項について ・意見交換
令和3年 1月 7日 (木)	・現地調査（下半期後半）の報告と助言事項について ・意見交換
令和2年 3月 2日 (火)	・現地調査（最終）の報告と助言事項について ・来年度の実施計画について

② 定期現地調査の実施状況（8社協実施）

	期　日	調査実施社協名
1	令和2年 7月 27日 (月)	草津市社会福祉協議会
2	令和2年 7月 28日 (火)	多賀町社会福祉協議会
3	令和2年 7月 30日 (金)	愛荘町社会福祉協議会
4	令和2年 10月 26日 (月)	守山市社会福祉協議会
5	令和2年 11月 11日 (水)	日野町社会福祉協議会
6	令和2年 12月 2日 (水)	近江八幡市社会福祉協議会
7	令和2年 12月 7日 (月)	甲賀市社会福祉協議会
8	令和3年 2月 17日 (水)	栗東市社会福祉協議会

<レイカディア振興グループ>

1 高齢者の健康と生きがいづくりの推進

高齢者のスポーツ・文化活動に親しむ機会や日ごろの生きがいづくり活動を発表する場の提供を通じて、また高齢者自らが地域活動に参画することにより、健康や生きがいづくりに対する意識の高揚を図るとともに、地域間・世代間の交流促進、社会参加の拡大を推進。

(1) シルバー作品展事業

① 滋賀県シルバー作品展の開催

（当初予定）

・出品全作品の展示

開催日 令和2年6月2日(火)～6月7日(日)
 会 場 県立文化産業交流会館 イベントホール
 • 入賞(佳作を除く)作品の展示
 開催日 令和2年6月9日(火)～6月14日(日)
 会 場 イオンモール草津 イオンホール
※コロナ感染症の影響により開催中止

(2) スポーツ等交流大会開催事業

① ねんりんピックびわこ・レイカディア県民大会スポーツ等交流大会の開催

【 スポーツ等交流大会 】 開催: 7、中止 18 /25

種 目	実 施 状 況	会 場
卓 球	中止	(安曇川総合体育館)
テニス	中止	(県立希望が丘文化公園テニスコート)
ソフトテニス	中止	(県立長浜ドーム)
ソフトボール	中止	(大津市和邇市民運動広場)
ゲートボール	中止	(大津市伊香立運動公園・スパーク山東)
ペタング	6月 11 日	大津市和邇市民運動広場
三世代交流マラソン	中止	(近江八幡市立運動公園周辺、水郷周辺コース)
剣 道	中止	(草津市立武道館)
グラウンド・ゴルフ	8月 1 日～9月 30 日 10月 17 日	希望が丘文化公園G G 場他
太極拳	中止	(八日市文化芸術会館)
ソフトバレーボール	中止	(草津市立総合体育館)
サッカー	6月 21 日	ビックレイク(守山市)
ウォークラリー	中止	(大津市内)
オリエンテーリング	6月 28 日	皇子が丘公園
弓 道	中止	(彦根市営弓道場)
水 泳	中止	(県立障害者福祉センター)
ラグビーフットボーラー	毎週土曜日練習	東レ周山グラウンド
ゴルフ	10月 12 日、 11月 20 日	蒲生ゴルフ倶楽部、滋賀ゴルフクラブ
ダンススポーツ	中止	(未定)
マレットゴルフ	中止	(野洲市マイアミランド)
インディアカ	中止	(大津市勤労者体育センター)
ターゲットバードゴルフ	5月 23 日	杣川河川敷コース
バウンドテニス	中止	(大津市和邇市民体育館)
スポーツウェルネス吹矢	中止	(野洲市総合体育館)
パドルテニス	中止	(守山市民体育館)

【文化等交流大会】 開催：2、中止2／4

種 目	実 施 状 況	会 場
囲 暮	7月19日	彦根東高校第2別館
将 棋	4月5日	コミュニティーセンターやす
俳 句	中止	(野洲文化小劇場)
健康マージャン	中止	(未定)

【びわこ交流大会】 中止：1

種 目	実 施 状 況	会 場
ボート	中止	(県立琵琶湖漕艇場)

② 次年度ねんりんピックびわこ・レイカディア県民大会スポーツ等交流大会説明会の開催

開催日 令和3年1月30日(土)
 会 場 県立長寿社会福祉センター
 参加者 16団体

(3) 全国健康福祉祭選手派遣事業

① 滋賀県選手結団式・全体説明会
※コロナ感染症の影響により中止

② 第33回全国健康福祉祭 岐阜大会
 (当初予定)

開催日 令和2年10月31日(土)～11月3日(火)
 開催地 岐阜市ほか
※コロナ感染症の影響により中止

2 レイカディア大学の充実、生涯現役レイカディア人材の活動の場づくり

高齢者に健康と生きがいづくりのための実践的な知識や教養、技能を修得する学習機会を提供し、県内の高齢者の自立と地域貢献に寄与するようレイカディア大学を運営した。

(1) レイカディア大学の運営

【修業年限】 2年間

【入学資格】 現に県内に居住する満60歳以上の者で、大学設置の趣旨を理解し、学習意欲に富み、通学および各種講義に出席しうる健康を有する者。

【授業料】 年間 50,000円 (前期・後期 各25,000円)

【学習内容・時間】 対象期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日

※ 令和2年3月2日から8月31日まで、新型コロナウィルス感染症の影響により臨時休校。卒業時期および学習期間を半年延期。43期学生募集を中止。

◆必修講座

学習領域	主な学習内容	学習時間（実績）	
		1年	2年

人間理解	福祉、人権、健康、保健、安全、仲間づくり、家族	[草津校] 66 時間 (16.5 日) [米原校] 70 時間 (17.5 日)	[草津校] 62 時間 (15.5 日) [米原校] 66 時間 (16.5 日)
郷土理解	自然、歴史、文化、芸術、自然保護、環境保全、街づくり、地域振興		
社会参加	政治、経済、社会、国際理解、生涯学習、ボランティア（地域活動体験学習等）、自己実現		
学校行事	オリエンテーション、入学式、卒業式、地域活動体験学習報告、課題学習報告会、自主活動、ボランティアの日		

◆選択講座

学習領域	主な学習内容	学習時間（実績）		
		1年	2年	合計
園芸学科 [草津校] [米原校]	庭木・果樹の作り方、土壤・施肥管理、剪定、野菜・山野草の育て方、寄せ植え、その他	[草津校] 52 時間×2 クラス [米原校] 56 時間	[草津校] 56 時間×2 クラス [米原校] 56 時間	328 時間 (82 日)
陶芸学科 [草津校]	作陶、素焼、施釉、本焼、陶芸の科学・歴史、その他	48 時間	48 時間	96 時間 (24 日)
びわこ環境学科 [草津校]	自然の姿・仕組み、環境汚染、環境に優しい暮らし（ゴミの軽減化、エコ生活等）、水質保全、里山保全、その他	52 時間	52 時間	104 時間 (26 日)
地域文化学科 [草津校]	近江の歴史・文学・文化・自然、伝承技法、まちづくり、その他	52 時間	52 時間	104 時間 (26 日)
北近江文化学科 [米原校]	北近江の歴史・文学・文化・自然、伝承技法、まちづくり、その他	-	52 時間	52 時間 (13 日)
健康づくり学科 [草津校] [米原校]	高齢期の症状理解、老化予防、健康維持・増進（栄養、生活習慣、趣味と健康、リエーション等）その他	[草津校] 52 時間 [米原校] 56 時間	[草津校] 56 時間 [米原校] 52 時間	216 時間 (54 日)
合 計		420 時間 (105 日)	480 時間 (120 日)	900 時間 (225 日)

【 学生数 】

(第41期生 令和3年3月26日現在)

(第42期生 令和3年3月末現在)

	草津校							米原校							合計		
	41期生		42期生		計			41期生		42期生		計					
園芸A	22	15 7	19	13 5	1 0	41	28 12 0	22	14 7	1 0	25	14 9 1	1 1	47	28 16 2	88	56 28 3
園芸B	20	15 5	21	14 6 1	1	41	29 11 0 1	0	0	0	0	0	0	0	0	41	29 11 0
陶芸	17	5 4 1	26	15 10	1	43	20 14 8 1	0	0	0	0	0	0	0	0	43	20 14 8 1
びわ環	11	7 2 1	13	11 1	1	24	18 3 1 2	0	0	0	0	0	0	0	0	24	18 3 2
地域/ 北近江	21	17 4	17	10 4	2	38	27 8 2 1	10	5 5	0	0	0	0	10	5 5 0	48	32 13 2
健康	18	5 13	14	4 10	0	32	9 23 0	8	4 4	0	10	1 7	2	18	5 11 2 0	50	14 34 2 0
計	109	64 35 8 2	110	67 36 4 3	12	219	131 71 12 5	40	23 16 0	1	35	15 16 3 1	3	75	38 32 4 1	294	169 103 16 6

※ 上段：男性、下段：女性。網掛けは、リカレントコース履修生数（外数）。

【 学生募集・入学状況（43期生）】

※コロナ感染症の影響により中止（1年延期）

① 地域活動体験学習

地域活動体験学習では、在学中に地域活動（ボランティア活動）を実際に体験し、地域との関わりや繋がりを自らがつくり、地域の人々と共に課題に取り組む力を身につけた。

・ 地域活動体験学習クラス報告会

個人の地域活動の成果をクラス内で共有し、個人の学びをクラス全体での学びとして共有することができた。

② 課題学習

学生自らが課題を見い出し、その課題に向けた取り組みをグループで実践し、卒業後の活動へとつなげた。

・ 課題学習報告会

課題学習委員が主体となり企画・運営を行い、学年全体での報告会を実施。学びの成果を発表した。

開催日 草津校：令和3年2月12日（金）

米原校：令和3年3月4日（木）

③ 大学祭

コロナ禍での開催方法について学生が主体となり検討を重ね、運営方法を工夫し実施した。日頃の学びを展示・発表することを通じて、学習効果をより一層深めるとともに、仲間との交流を深め、学びを共有することができた。

[草津校] 名 称 『学習成果展示会』

開催日 令和2年12月18日（金）～12月19日（土）

会 場 県立長寿社会福祉センター

来場者数 約400名

[米原校] 名 称 『大学祭 展示の部』
 開催日 令和3年3月2日(火)～3月3日(水)
 会 場 県立文化産業交流会館
 来場者数 約60名

④ ボランティアの日

実践的な地域活動につながるよう学年単位でボランティア活動の企画運営を学生自らが行った。

[草津校] 4 1期・4 2期

開催日 令和3年3月16日(火)、18日(木)
 会 場 県立長寿社会福祉センター、びわこ文化公園
 内 容 講義：「人生100年時代のボランティア考」
 活動：落葉収集、運搬集積等

[米原校] 4 1期・4 2期

開催日 令和2年11月19日(木)※2学年同時開催
 会 場 米原公民館
 内 容 講話、公民館前庭他周辺の清掃作業

公開講座・学校見学

(当初予定)

校	開催日	内 容
草津校	令和3年2月26日(金) 13:00～15:00	滋賀の素敵を発信 三方よしの理念 (必修講座)
米原校	令和3年3月11日(木) 13:00～15:00	生活習慣病・うつ病予防のための幻のラジオ体操 第3の役割 (必修講座)

※コロナ感染症の影響により中止

⑤ 短期公開講座

(当初予定)

	講座名称	日程	内容
①	古都古都（ことこと）ウォーク [受講料]各500円	ア) 2月25日 (木)	膳所地区 (膳所城跡、蘆花浅水荘)
		イ) 3月4日(木)	石山地区 (唐橋、紫の道、石山寺)
②	写真入門講座 ～シルバー作品展 準備講座～ [受講料]1,000円	・2月24日(水) ・3月3日(水) (2日間コース)	・写真の基礎知識と撮影ポイント ・写真を作品に仕上げるコツ
③	在宅介護講座 [受講料]3,000円	・3月1日(月) ・3月2日(火) (2日間コース)	・経験者に学ぶ。認知症の方への対応。 ・高齢者に多い病気と身体的特徴 ・負担を楽にする福祉用具

※コロナ感染症の影響により中止

(2) 滋賀県レイカディア大学サポートの会との協働

レイカディア大学の運営サポートを目的に設置されている卒業生の組織である滋賀県レイカディア大学サポートの会と協働し、より良い大学運営を推進した。

具体的にはコロナ禍における学生生活の支援・学生募集・大学祭の支援、レイカディア大学ホームページの運用管理、レイカディア大学だよりの発行と配布、選択講座助手、園芸学科の実習準備および学校行事にかかる校内環境整備、校外学習の引率サポートを実施した。

(3) レイカディア大学再編にかかる検討

令和4年度のレイカディア大学再編に向けて、学識経験者、関係団体、行政機関等の委員で構成する委員会を編成し、検討を行った。

①レイカディア大学運営委員会

開催日 令和2年11月20日(金)、令和3年2月19日(金)

②一般教養講座(仮称)専門部会

開催日 令和3年1月15日(金)、2月5日(金)

3 レイカディア大学卒業生等「地域の担い手」5,000人のストーリー発信

中高年者の生きがい・役割づくり・健康づくりについての啓発、普及を行うために、高齢期の社会参加や生きがいづくりの促進につながる情報および健康に関する情報を発信し、豊かで生き生きとした長寿社会づくりの意識を高めた。

(1) 情報誌「レイカディア通信」の発行

① 第7号：令和2年12月11日発行、3,600部

(テーマ) 「withコロナ時代！工夫しよう！会えなくてもつながる方法」

② 第8号：令和3年3月19日発行、3,600部

(テーマ) 「シニアの地域活動特集号」

(2) 卒業生による「びわこシニアネットホームページ」の運営・充実

①シニアITボランティアによるホームページの更新

更新日：毎週月・木曜日、ボランティア登録者数：4～7名

更新回数 64回

②びわこシニアネットアクセス件数

6,352件(4月～3月)、20.1件(1日平均)

4 長寿社会づくりに関する調査および研究の実施

今回実施した調査は、レイカディア大学卒業生および市町社会福祉協議会を対象として、数年ごとに定期的に調査しているもので、卒業生の各地域での活動実態を把握するとともに、地域活動に対する意識等やコロナ禍における活動等を調査し、今後の各種支援方策を検討するための基礎資料とした。

① 調査名称：令和2年度滋賀県レイカディア大学卒業生活動状況等調査

② 実施日：令和2年12月

③ 対象：直近3か年の卒業者 485名

④ 回収数、回収率：回収 363、回収率 74.8% (前回 69.7%)

⑤ 報告書：350部作成 令和3年3月下旬発行

公共施設、市町行政、市町社協等へ配布

【人材部門】

<介護・福祉人材センター>

1 「滋賀の福祉人」の確保

(1) 現場職員と高校生・大学生等との交流「ふく・楽 CAFÉ」の開催

- ・学生等が職員との対話を通じて介護・福祉職場の仕事の魅力、やりがい、多様な働き方など「ふくしの仕事と楽しく生きる」ことの魅力を実感し、介護・福祉職場への理解を深めるとともに、進路選択の参考、働く意欲の高揚を図るために「ふく・楽 CAFÉ」を実施した。コロナの影響により、令和2年度は6回の実施にとどまった。

①高校での「ふく・楽 CAFE」

センター区分	開催日	会場	学年 人数	講 師
南部	令和3年 2月 17 日(水)	八幡高校	2年 48人	(社福) 六心会
湖北	令和2年 12月 17 日(木)	愛知高校	2年 10人	介護・福祉人材センター 福祉用具センター
	令和3年 1月 22 日(金)	県立盲学校	中・高生 3人	介護・福祉人材センター
合 計			61人	

②大学等での「ふく・楽 CAFE」

センター区分	開催日	会場	参加者数	備 考
湖北	12月 4 日(金)	滋賀文教短期大学	21人	短大主催「J O B セミナー」 にオンライン参加

③地域での「ふく・楽 CAFE」

センター区分	開催日	会場	人数	講 師
南部	令和2年 10月 2 日(水)	大津市勤労者福祉セ ンター	19人	(社福) 真寿会、(社福) 華 頂会、(社福) 大津市社会福 祉事業団
	令和2年 11月 10 日(火)	マザーズジョブステ ーション	0人	参加者なしにつき流会
湖北	令和2年 10月 17 日(土)	長浜市神照まちづく りセンター	9人	(社福) 近江薰風会、(社福) ひかり福祉会
合 計			28人	

(2) 福祉職場へのインターンシップ等の実施

①高校生向け「職場体験」

- ・高校生を対象に、介護・福祉職場での体験を通して、具体的な仕事の内容、魅力ややりがい、実際の職場の雰囲気などを知ってもらうことにより、介護・福祉分野への理解を深めるとと

もに、介護・福祉分野への進路選択の意欲を高める契機とすることを目的として実施した。

体験受入登録事業所数	事業所 39 (高齢 30、障害 6、児童 3)
体験実施期間	令和 2 年 8 月 24 日 (月) ~ 令和 3 年 3 月 12 日 (金)
体験者数	7 人 (南部 7 人、湖北 0 人)

②大学生・社会人向け「助成金付きインターンシップ」

- ・介護・福祉の仕事に関心のある方に職場の雰囲気や仕事内容を知ってもらう機会を提供し、就労意欲を喚起するとともに、体験終了時にはセンター職員が同席して体験の振り返りを行い、体験での気づきや今後の希望等を確認の上、就労希望者には継続的な支援を行った。

体験受入登録事業所数	事業所 42 (高齢 33、障害 6、児童 3)
体験実施期間	令和 2 年 8 月 24 日 (月) ~ 令和 3 年 3 月 12 日 (金)
体験者数 (延べ)	40 人 (南部 27 人、湖北 13 人)
うち就職者	9 人 (南部 7 人、湖北 2 人)

(3) オンラインツアーの開催

- ・学生を対象に、オンラインで福祉施設をめぐるツアーを実施した。福祉の職場で「はたらく」ことのやりがいや魅力を伝え、関心・共感の広がりや深化を図り、福祉職場への就職につなげることを目的に、前年のバスツアーに続いて甲賀地域をモデルとして開催した。

開催日 令和 3 年 3 月 26 日 (金) 13:30~16:00

参加者 10 人 (龍谷大学 2 人、花園大学 1 人、びわこ学院大学 7 人)

行程 (社福) しがらき会 信楽青年寮 しん・らく

(医社) 仁生会 甲南病院

(社福) 洗心福祉会 甲賀シルバーケア豊壽園

ナビゲーター：(社福) さわらび福祉社会施設長

(4) カイゴとフクシ就職フェア in しがの開催

- ・介護・福祉職場と求職者とのマッチングの場として「カイゴとフクシ就職フェア in しが」を開催した。

2020年度「カイゴとフクシ就職フェアinしが」開催状況													
開催日	会場	出展法人数	来場者数				クオカード(4もしくは5法人以上訪問)	1法人あたりブース訪問者数(平均)	採用者数				
			学生	うち下回生	社会人	学生			学生	社会人			
4/12(日)	草津市立まちづくりセンター	25	新型コロナウイルス感染拡大のため中止										
4/18(土)	ビバシティ彦根	25											
4/25(土)	滋賀県庁	28											
	小計	78											
7/18(土)	オンライン開催	15	30	21 70%	12 40%	9 30%	7 33%	7.7	2	1	1		
	小計	15	30	21	12	9	-	7.7	2	1	1		
10/10(土)	大津合同庁舎	16	37	7 19%	5 14%	30 81%	25 68%	8.2	4	2	2		
10/18(日)	草津市立まちづくりセンター	10	21	9 43%	3 14%	12 57%	12 57%	7.5	2	1	1		
10/24(土)	大津合同庁舎	16	59	11 19%	11 19%	48 81%	41 69%	13.8	6	0	6		
10/31(土)	ビバシティ彦根	10	25	4 16%	1 4%	21 84%	16 64%	8.7	5	0	5		
	小計	52	142	31 22%	20 14%	111 78%	94 66%	9.6	17	3	14		
12/20(日) I部	大津合同庁舎	16	55	18 33%	10 18%	37 67%	34 (61.8%)	12.4	1	0	1		
12/20(日) II部	大津合同庁舎	16	33	6 18%	4 12%	27 82%	22 (66.7%)	7.4	2	0	2		
1/30(土) I部	ビバシティ彦根	9	36	8 22%	7 19%	28 78%	18 (50.0%)	12.0	8	0	8		
1/30(土) II部	ビバシティ彦根	9	26	6 23%	5 19%	20 77%	11 (42.3%)	7.6	2	0	2		
2/20(土) I部	草津市立まちづくりセンター	10	58	20 34%	17 29%	38 66%	27 (46.6%)	15.6	7	2	5		
2/20(土) II部	草津市立まちづくりセンター	9	59	26 44%	22 37%	33 56%	34 (57.6%)	21.4	4	3	1		
2/13(土)	オンライン開催	29	21	13 62%	10 48%	8 38%	5 (23.8%)	2.7	4	2	2		
	小計	98	288	97 34%	75 26%	191 66%	151 (52.4%)	11.3	28	7	21		
	合計	165	460	149	107	311	245	平均 9.5	47	11	36		

<フェアの内容>

今年度は、コロナ感染症拡大の影響により、上半期に予定していた対面式のフェアを中止し、オンラインで1回開催した。下半期は出展法人数を絞り、コロナ感染症拡大防止対策を講じた上で対面式とオンライン形式で実施した。開催回数は合計12回となった。

(5) 介護に関する入門的研修の開催

- ・介護の基本的な知識・技術を学ぶ機会として「介護に関する入門的研修」(21時間)を実施した。

(カリキュラム内容)

	時 間		内 容
1日目	9：30～9：45		オリエンテーション
	9：45～11：15	1.5時間	介護に関する基礎知識
	11：30～13：00	1.5時間	介護の基本
	14：00～16：00	2時間	障害の理解
2日目	10：00～16：00	10時間	基本的な介護の方法
3日目	10：00～16：00		
4日目	9：30～11：30	2時間	介護における安全確保
	12：30～16：30	4時間	認知症の理解
	16：30～16：45		修了式

(開催日程等)

区分	日程	会場	参加者数	就職者数
南部	令和3年 2月24日(水) 2月25日(木) 3月3日(水) 3月4日(木)	滋賀県立長寿社会 福祉センター	16	1

(6) 離職した介護福祉士等の届出の推進、再就職支援セミナーの開催

①届出

- ・離職の有無にかかわらず、人材センター求職登録者や福祉研修センターの各種研修受講者への制度周知および届出の勧奨を図った。また、今年度は社会福祉振興試験センターでの周知が図られたことから登録者が増加した。

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
届出者数	149	120	201	735

②就職支援セミナーの開催

- ・介護職場への就労支援のため、離職介護福祉士等を対象に「就職支援セミナー」を開催した。開催にあたっては、介護・福祉人材センターによる「介護の職場で働くにあたっての支援制度」の説明や「ミニ相談会」も実施し、参加者の満足度向上を図った。

【南部】

開催日

<1回目>令和3年2月19日(金)、<2回目>令和3年3月13日(土)

会 場 草津市立まちづくりセンター

内 容 第1部「介護の仕事ってしんどい！？介護技術の基本のキ」

　　福祉用具センター 谷 佳代(作業療法士)

第2部「介護の職場で働くにあたっての支援制度」

　　介護・福祉人材センター職員

参加者 <1回目> 7人、<2回目> 7人

【湖北】

開催日 令和2年9月18日（金）

会 場 子育て応援カフェ LOCO

内 容 (株)ニチイ学館および(社福)ひだまりの職員をゲストに招きセミナー実施

参加者 9人（うち1名が就職）

（7）無料職業紹介事業等の実施

①概要

- ・職業安定法第33条に基づく厚生労働大臣許可のもと無料職業紹介事業を行った。

センター区分	新規求人件数 (年累計)	新規求職者数 (年累計)	有効求人件数 (年平均)	有効求職者数 (年平均)	有効求人倍率 (年平均)	紹介・応募数	紹介・応募のうち採用数	就職フェア等を通じた採用数	採用数計
南部	3,308	942	821	244	3.36	65	40	27	67
湖北	979	284	259	84	3.08	27	21	21	42
合計	4,287	1,226	1,080	328	3.29	92	61	48	109
令和元	4,364	1,320	1,139	393	2.90	113	67	89	156

②求人情報の発信

- ・求職登録者全員に毎月発行していた求人情報誌は希望者のみへの送付とし、代わりに毎月2回、最新の求人情報をまとめてホームページ等で公開しマッチングの資料として活用した。

③地域へ出向いての就職活動支援

ア. ハローワーク等でのガイダンス・就職説明会、出張相談の実施

- ・各圏域のハローワークでは、コロナの影響により7月までガイダンスを中止し、8月から再開した。
- ・南部では、主にハローワークや関係機関での求職者へのガイダンス、出張相談を実施した。また、ハローワークにおける「介護・福祉の職場ガイダンス」終了後、2～3事業所による地域密着型の小規模な就職説明会を開催した。
- ・湖北では、出張相談のほか、長浜市立市民交流センターにおいて、7月以降毎月「ミニ就職説明会」を開催し、採用数の増加につなげた。

<介護・福祉の職場ガイダンス>

センター区分	開催場所	開催時期・回数	参加者数	新規求職登録者数	採用者数
南部	ハローワーク大津	毎月第4木曜日 8回	119	13	4
	ハローワーク草津	毎月第3月曜日 8回	133	9	3
	ハローワーク甲賀	奇数月第2水曜日 4回	31	6	3
	ハローワーク東近江	偶数月第2水曜日 4回	45	3	0
	ハローワーク高島	8月、10月、12月	26	3	1

		第1木曜日 3回			
湖北	ハローワーク彦根	毎月第4火曜日 8回	60	5	0
	ハローワーク長浜	毎月第3火曜日 7回	80	7	0
合 計			494	46	11

<就職説明会>

センター区分	開催場所	開催時期・回数	参加者数	新規求職登録者数	採用者数
南部	ハローワーク大津	毎月第4木曜日 8回	35	16	0
	ハローワーク草津	毎月第3月曜日 8回	46	17	0
	ハローワーク甲賀	奇数月第2水曜日 4回	29	15	2
	ハローワーク東近江	偶数月第2水曜日 4回	8	4	1
	ハローワーク高島	8月、10月、12月 第1木曜日 3回	6	5	0
湖北	ハローワーク彦根	毎月第4火曜日 7回	26	3	1
南部	草津市立まちづくりセンター	令和2年7月 13日 (月)	7	2	1
南部	甲賀市民活動センター「まる一む」	令和2年7月 14日 (火)	2	0	0
南部	大津市平野公民館	令和2年7月 16日 (木)	4	0	0
湖北	長浜市立市民交流センター	毎月第1土曜日 7回	83	27	12
合 計			246	89	17

<出張相談(要予約)>

センター区分	開催場所	開催時期	相談者数	新規求職登録者数	採用者数
南部	シニアジョブステーション滋賀	毎月第2木曜日	1	1	0
	滋賀マザージョブステーション	毎月第4水曜日	2	2	0
湖北	ハローワーク彦根	毎月第4火曜日	0	0	0
	ハローワーク長浜	毎月第3火曜日	0	0	0
	木之本まちづくりセンター	6月、10月、2月 第2金曜日	1	1	1
合 計			4	4	1

<養成施設における就職支援>

センター区分	養成施設名・養成コース	開催日	受講者数
南部	(有)スタック 初任者研修	令和2年 6月 18 日(木)	9
	(有)スタック 初任者研修	11月 17 日(火)	14
	(公財)介護労働安定センター 実務者研修	10月 7 日(水)	19
	(有)スタック 実務者研修	10月 21 日(水)	15
	(有)スタック 初任者研修	令和3年 2月 18 日(木)	7
合 計			64

イ. 学校、各市町等との就職説明会等の開催

センター区分	開催名称	開催日	会場	概要
南部	東近江市介護の合同説明会 in びわこ学院大学	令和2年 9月8日(火)	びわこ学院大学	出展法人数：9 学生数：40
	高齢者の介護・看護 合同職場説明会&面接会 in おうみはちまん	10月3日(土)	県立男女共同参画センター	出展法人数：9 来場者数：40
	高島市「福祉の職場説明会」	11月25日(水)	安曇川公民館	出展法人数：12 来場者数：7
	甲賀市・湖南市「福祉の仕事就職フェア」	令和3年 2月27日(土)	サンヒルズ甲西	出展法人数：22 来場者数：27
	高島市「福祉の職場説明会」	3月14日(日)	安曇川公民館	出展法人数：13 来場者数：30
	花園博覧会	2月22日(月) ～5月末	花園大学	WEBでの実施 出展法人数：22
湖北	外国人向け介護職員初任者研修修了者事業所説明会	令和3年 2月13日(土)	長浜市社会福祉協議会	長浜市社協の外国人介護職員初任者研修修了者を対象とした説明会 参加者数：10

④福祉職場の魅力発信・啓発

ホームページ、LINE、facebook、ツイッターによる情報発信

- ・今年度は新たにLINEおよびツイッターを開設し、介護・福祉の仕事の魅力、就職フェア等のイベント情報、働きたい方への求職登録や求人情報の提供、介護・福祉職場で働いている方や事業者に向けた情報など、人材確保・定着の取組を発信した。LINEの登録者数は約330人、WEBを活用した情報発信件数は120回となった。

(8) アクティブシニアの介護・福祉職場への就労等に係る個別相談

滋賀県生涯現役促進地域連携協議会からの委託により、「しがアクティブシニア相談窓口」を開設し、専属の相談員（キャリアコンサルタント有資格者）が概ね55歳以上の方を対象に、仕事のリタイア後の生活設計や就労をはじめとする様々な社会参加に関する相談など相談者のニーズに合わせたサポートを行った。

①相談窓口対応

- | | |
|----------|--------------------------|
| ア 実施期間 | 令和2年4月1日(水)～令和3年3月31日(水) |
| イ 開設場所 | 南部介護・福祉人材センター内 |
| ウ 受付時間 | 月～金曜日(祝日、年末年始除く) 9時～17時 |
| エ 延べ相談件数 | 549件 |

分類	件数	分類	件数
今後の方向性	168	求職活動方法	59
求人案件検討	113	適性診断	35
面接結果報告	63	その他	111

オ 進路決定数

分類	件数
就職決定(正規)	3(0)

就職決定（正規以外）	48（6）
ボランティア等	0

※カッコ書きは、介護・福祉分野への決定者の内数

②セミナー・仕事説明会等での対応

協議会が開催する生涯現役セミナー&仕事説明会に参加し、個別相談に応じた。

開催日	会場	相談対応件数
令和2年9月30日(水)	高島市観光物産プラザ	4件
10月14日(水)	あいこうか市民ホール	4件
10月29日(木)	草津市市民交流プラザ	3件
11月25日(水)	滋賀ビル	1件

2 「滋賀の福祉人」の定着支援・ネットワークづくり

（1）新入職員の定着支援

①実行委員会形式による合同入職式の開催

開催日	令和2年5月25日(月) (中止)
会場	琵琶湖ホテルでの開催を予定していたが、コロナの影響により集合しての合同入職式は中止とし、代替事業を実施
内容	合同入職式に代えて、滋賀県知事のメッセージカードおよび激励動画を希望者に送付
希望者数	75人
実行委員会 (11団体)	滋賀県老人福祉施設協議会、一般社団法人滋賀県介護老人保健施設協会、滋賀県介護サービス事業者協議会連合会、滋賀県ホームヘルパー協議会、特定非営利活動法人街かどケア滋賀ネット、一般社団法人滋賀県介護福祉士会、公益社団法人滋賀県社会福祉士会、滋賀県介護支援専門員連絡協議会、滋賀県介護福祉士養成施設協会、社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会、滋賀県

②フォローアップ研修・交流会（半年後）の開催

1年後の開催はコロナの影響により中止

開催日	令和2年12月8日(火)
会場	オンライン開催
内容	○オンライン研修&交流会 内容：「入職してから今までを振り返ろう！これからを働きやすく、楽しく、働いていくために。」 講師：丸毛 幸太郎 (NPO法人C o . t o . h a n a コミュニティデザイナー) 話題提供：県内若手職員8名 ○ケアニン上映会 「ケアニン～あなたでよかったです～」をオンライン配信
参加者数	44名

（2）メンターの育成を通じた新入職員の定着支援

コース	参加者数	内容
基礎	12人 (9事業所)	メンター制度導入に向け、意義や進め方を学ぶ。 (講師) 幸重 忠孝 (幸重社会福祉士事務所代表) ・育成研修 (平成2年10月6日(火)、13日(火))

定着支援	14人 (11事業所)	1年間を通じたプログラムを通じ、メンターを育成する。 (講師) 幸重 忠孝 (幸重社会福祉士事務所代表) ・育成研修（令和2年10月6日(火)、13日(火)） ・フォローアップ研修（中止） ・成果報告会（令和3年2月26日(金) 参加9人） ・支援員による巡回相談（1回 11事業所 面談14人）
------	----------------	---

(3) キャリア・ライフ電話相談の実施

- 介護・福祉職場職員からの職場の人間関係等の悩み、スキルアップ、キャリア・デザイン、ワーク・ライフ・バランスなどに関する電話相談等を実施した。

実施期間 令和2年4月1日(水)～令和3年3月31日(水)

月～金曜日（祝日、年末年始を除く）10時～16時

実施方法 電話相談

相談件数 15件

分類	件数		件数
1. 職場内人間関係	3	4. 資格取得等のスキルアップ	3
2. ワーク・ライフ・バランス	1	5. 支援技術等ノウハウ	0
3. 職場のストレス（1以外）	3	6. その他	5

(4) 出前講座（無料講師派遣）の実施

- 職場内研修支援事業として、滋賀県介護福祉士会及び滋賀県社会福祉士会等と連携し、無料講師派遣を実施した。

<研修テーマ内訳>

分類	件数	分類	件数
対人支援の基本	3	働きやすい職場づくり	1
権利擁護・意思決定支援	2	看取り	1
認知症対応の基本	1	コンプライアンス	1
リスクマネジメント	1		

【滋賀県社会福祉研修センター】

滋賀の福祉人研修

「滋賀の福祉人」に込めた意味

滋賀の福祉人に込めた意味は、滋賀の福祉現場で働く人たちが持つてほしいアイデンティティーとビジョンです。

支援者としての価値と倫理観を日々の福祉実践を通して具現化しようとする人、そして具現化した人を「滋賀の福祉人」と称します。

(研修の特徴)

○事前学習課題を設定し、学習の視点、目的意識をもって研修に参加できるようにする。

- 講義とグループ演習により主体的に学習を進める。
- 福祉・介護分野で働く者としてその土台となる福祉観、意味や価値について、滋賀の福祉実践者から学ぶ科目を設定する。
- 研修を通して、自分自身の職業観を深めキャリアを展望することができるようになる。

各種研修の実施

R2年度の各種研修は、コロナ禍での開催となったため、実施時期の変更、定員縮小・会場増設、一部オンラインの導入などの措置とともに、感染防止対策を徹底して実施した。

1 介護分野で働く「滋賀の福祉人」育成研修

(1) 介護職階層別

① 新任期（原則3年未満）	(3.5日×5コース)	※コロナ禍により3コース中止 (3.5日×2コース)	[修了者数] 33人
② 中堅期（原則5年未満）	(3日×1コース)		[修了者数] 33人
③ チームリーダー	(3日×1コース)		[修了者数] 39人
④ 管理職	(2日×1コース)		[修了者数] 23人

(2) 研修運営連携会議（2回）

※コロナ禍により中止

2 介護職員のキャリアアップに資する研修

(1) 介護職員チームリーダー養成研修	(16日×2コース)	※コロナ禍により1コース中止 (16日×1コース)	[修了者数] 12人
(2) 介護職員実務者研修通信課程	(10日×1コース)		[修了者数] 19人

3 専門技術・課題別研修

(1) 対人支援における記録入門研修	(2日×1コース)	[修了者数] 42人
(2) OJT推進リーダー研修	(3日×1コース)	[修了者数] 32人

4 「えにし滋賀の福祉人」研修

(1) 社会福祉共通研修		
① 新任期（原則3年未満）	(3.5日×1コース)	[修了者数] 31人
② 中堅期（原則5年未満）	(3日×1コース)	※コロナ禍により中止
③ チームリーダー	(3日×1コース)	[修了者数] 43人
④ 管理職	(2日×1コース)	[修了者数] 17人

5 介護支援専門員の法定研修事業

(1) 介護支援専門員実務研修	(15日×2コース)	[修了者数] 78人
-----------------	------------	------------

- (2) 介護支援専門員専門課程 I (9 日×3 コース) ※コロナ禍により中止
- (3) 介護支援専門員専門課程 II (5 日×3 コース、8 日×2 コース) ※2 コース中止
(5 日×2 コース、8 日×1 コース) [修了者数] 166 人
- (4) 介護支援専門員再研修 (10 日×1 コース) [修了者数] 50 人
- (5) 介護支援専門員更新研修 II (11 日×1 コース) [修了者数] 49 人

6 認知症に関する専門的研修事業

- (1) 認知症介護基礎研修 (1 日×6 コース) ※コロナ禍により 2 コース中止
(1 日×4 コース) [修了者数] 217 人
- (2) 認知症介護実践者研修 (8 日×3 コース) [修了者数] 119 人
- (3) 認知症介護実践リーダー研修 (11 日×1 コース) [修了者数] 20 人
- (4) 認知症介護実践リーダーフォローアップ[®] 研修 (5 日×1 コース) [修了者数] 2 人
- (5) 認知症介護サービス事業開設者研修 (1 日×1 回) [修了者数] 9 人
- (6) 認知症対応型サービス事業管理者研修 (2 日×2 コース) [修了者数] 42 人
- (7) 小規模多機能型サービス等計画作成者研修 (2 日×2 コース) ※コロナ禍により 1 コース中止
(2 日×1 コース) [修了者数] 23 人
- (8) 主任介護支援専門員研修 (12 日×1 コース) [修了者数] 43 人

7 権利擁護に関する研修事業

- (1) 権利擁護(身体拘束廃止)推進員養成研修 (4 日×1 コース) [修了者数] 16 人
- (2) 身体拘束ゼロセミナー (1 日×1 回) [修了者数] 258 人
- (3) 障害者虐待防止・権利擁護相談担当職員研修 (1 日×1 回) [修了者数] 23 人
- (4) 障害者虐待防止・権利擁護施設従事者研修 (1 日×2 回) [修了者数] 246 人

8 職場内環境改善等に係る出前講座

(60 回) [講師派遣実績] 10 回

【福祉用具センター】

1 福祉用具(介護ロボットを含む)を活用したケアの推進

- ・安全なケアの促進や福祉用具の利活用を図るために、福祉用具セミナー・展示会をオンラインで開催した。

(1) 福祉用具セミナー・展示体験会

テーマ 福祉用具でケア革命！～抱え上げない安全な介護

内 容 セミナー、県内事業所による抱え上げない介護の実践報告、製品プレゼンテーション

開催日 令和2年11月5日（木）

参加端末数 141台

(2) 企画展示

テーマ 即効！スタンディングリフト

内 容 製品展示・体験

開催期間 令和3年3月1日（月）～3月13日（土）

参加者数 49名

2 抱え上げない介護推進事業

- ・医療機関、介護保険事業所、障害福祉事業所を対象に、職員の腰痛予防等労働安全衛生やケアの質の向上に有効な抱え上げない介護の推進に向け、取組事業所を創成するための研修を開催した。

(1) 抱え上げない介護入門研修

(2) 抱え上げない介護リーダー研修

(3) 抱え上げない介護リーダー取組勉強会

実施詳細については別紙「研修等実績報告書」のとおり

3 高齢在宅介護者への介護方法や福祉用具の情報提供・発信

- ・在宅介護者の介護負担軽減等を図るため、セミナーの開催、常設展示や出前展示、ホームページ等による情報提供や発信を行った。

(1) 在宅介護セミナー

かいごのシゴト仕事就職支援セミナー

開催日 令和3年2月19日（金）、3月13日（土）

会 場 草津市立まちづくりセンター

内 容 【講義と実技】「介護の仕事ってしんどい？！介護技術の基本のキ」

参加者 18名

(2) 常設展示・見学受入(団体・個人)・依頼研修

①福祉用具センター展示

現在 604点の福祉用具を展示

②展示福祉用具の試用評価および貸出等による活用

- ・試用評価貸出件数 331 件

分類別貸出用具件数			
入浴用品	52 件	移乗用具・リフト	56 件
トイレ用具	22 件	コミュニケーション関連	30 件
歩行支援	31 件	家具・手すり	3 件
自助具	111 件	褥瘡予防	7 件
衣類・靴	17 件	その他	1 件
車いす	1 件	計	331 件

・研修・展示等貸出実績

借用者	研修	展示・イベント	貸出点数
福祉関係機関・団体等	4 件	3 件	7 件
福祉用具取扱い事業所、メーカー	3 件	6 件	15 件
高校	1 件	0 件	4 点
計	8 件	9 件	26 点

③福祉用具センター見学者等の受け入れ

- ・福祉用具センター来館者数 1,382 名

見学・視察（4 団体）	44 人	研修受講者	192 人
見学・視察〔個人〕	93 人	外部依頼研修（館内実施）	84 人
来所相談	147 人	その他来館者	640 人
福祉用具試用貸出	182 人		

- ・福祉用具センター利用者数 1,861 名

来館者	1,382 人	来所以外の相談	152 人
出前講座等	111 人	オンライン参加	216 人

④地域、団体、学校等からの依頼研修の実施

7 件実施（センター内実施 5 件、出前講座 2 件）

実施日	依頼元	内容	人数
9月24日	県立リハビリテーションセンター	日常生活用具の種類や特徴について	14
10月27日	滋賀県社会就労事業振興センター	快適な居住環境整備と介護	10
10月28日	滋賀医療技術専門学校	福祉用具の選び方・使い方	28
10月29日	滋賀医療技術専門学校	福祉用具の選び方・使い方	27
12月17日	愛知高校職業ガイダンス	抱え上げない介護の紹介	12
2月2日	滋賀県社会就労事業振興センター	福祉用具の使い方	7
2月18日	草津市在宅医療介護連携センター 草津市長寿いきがい課	介護負担が軽減する福祉用具について	7

(3) 民生委員児童委員等地域リーダー・専門職への情報発信

- ・えにし滋賀の福祉人研修、介護支援専門員を対象とした研修、認知症介護関係研修の場で、常設・企画展示の利用促進等を行った。

(4) ホームページによる情報発信

- ・福祉用具の新製品等の情報提供を行った。

(5) 地域イベントへの福祉用具貸出し、出前展示

- ・新型コロナ感染症感染対策のため、中止。

4 えにし滋賀の福祉人研修【再掲】

- ・福祉用具を活用した安全で快適なケア現場づくりを進めるために、介護・福祉事業所を対象にした福祉用具の基礎知識、ポジショニング、シーティング、住宅改修等の専門的研修を実施した。

詳細については別紙「研修等実績報告書」のとおり

5 介護負担軽減やより良い暮らしのための相談対応(在宅・施設)

- ・医療・福祉サービスの利用者やその家族、施設・事業所等関係機関から、福祉用具や住宅改修等の相談を受け、アセスメントや選定や使い方の助言、指導、フォローアップ等を行った。

(1) 福祉用具等に関する相談対応

①福祉用具・住宅改修に関する専門的な相談対応

- ・相談内容と件数（複数の相談対応）

相談内容	件数	相談内容	件数
福祉用具の紹介	135 件	住宅改修関係	21 件
福祉用具の選定・使用方法	140 件	更生医療・補装具関係	1 件
福祉用具の改造	40 件	その他	0 件
福祉用具関係その他	49 件	計	386 件

②福祉用具等の改造・製作

- ・改造・製作の内容と件数

福祉用具の種類	改造・製作の主な内容	件数
衣類	ズボン、下着の改造	3 件

③自助具製作グループとの連携および技術指導

- ・活動室を利用する自助具製作グループと連携を図るとともに、必要に応じ、技術指導を行った。

6 福祉用具センターの運営管理

(1) 滋賀県福祉用具センター運営委員会の開催

開催日	協議事項および結果

令和2年 8月 24日（月）	①展示福祉用具の選定について(13点中9点採用) ②福祉用具センターの事業について ・福祉用具展示場のリニューアルについて
令和3年 2月 8日（月）	①展示福祉用具の選定について (4点中3点採用) ②福祉用具センターの事業について ・抱え上げない介護推進事業について ・福祉用具展示場のリニューアルについて

(2) 福祉用具等に関する情報の収集、提供、普及に関する業務

- ・福祉用具・住宅改修についての情報収集および情報提供
新型コロナウィルス感染症拡大により、情報収集の機会である大規模展示会等が中止になり、インターネット等限られた手段からの情報取集に留まった。また、情報提供については展示会を開催するとともにホームページの有効活用を行った。

(3) 福祉用具センターおよび福祉用具センターの業務内容の普及に関する業務

- ・ホームページ等により、情報提供を行った。

(4) 関係機関・団体等との連携

- ・地域リハビリテーションを推進する各機関、団体等と連携し、相談体制の充実を図ったまた、福祉用具メーカー・福祉用具貸与販売事業所と連携し、福祉用具の普及促進を行った。
①県立リハビリテーションセンターとの連携
 - ・県立リハビリテーションセンター更生相談係と福祉用具相談プラザとしてワンストップでの相談対応に努めた。
 - ・福祉用具セミナー・展示体験会を共催で開催した。
 - ・県立リハビリテーションセンターが事務局となる「多職種連携学会」の運営に参画した。
- ②福祉用具メーカー・福祉用具貸与販売事業所との連携
 - ・福祉用具展示品の寄託・寄贈を得た。
 - ・日本福祉用具供給協会滋賀ブロックと福祉用具セミナー・展示会を共催で開催した。
- ③関係機関・団体との連携
 - ・滋賀県介護支援専門員協会と福祉用具セミナー・展示会を共催で開催した。